

# シラバス

2023年（令和5年度）



学校法人巨樹の会  
武雄看護リハビリテーション学校  
看護学科

教育課程内訳

評価計画

【別表1の1】

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間				
					1年	2年	3年		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30				
		健康科学	1	15	15				
		情報リテラシー	1	30	30				
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	30				
		成長発達論	1	30	30				
		人間関係論	1	30	30				
		倫理学	1	15	15				
		教育学	1	15	15				
		家族社会学	1	30	30				
		文化人類学	1	15	15				
		暮らしの科学	1	15	15				
		国際関係論	1	15	15				
		医療英会話	1	30	30				
	運動科学	1	15	15					
基礎分野 小計			14	315	315	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の発生と構造・血液の成分と機能	1	30	30				
		呼吸・循環の構造と機能	1	30	30				
		消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	1	30	30				
		脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	1	15	15				
		生化学	1	30	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	30				
		健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	1	30	30				
		健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・女性生殖器)	1	30	30		30		
		健康障害と治療Ⅲ (脳神経・運動器・感覚器)	1	30	30		30		
		健康障害と治療Ⅳ (内分泌・膠原病・感染症・アレルギー)	1	30	30		30		
		微生物学	1	30	30				
		がんと治療	1	15	15				
		栄養学	1	30	30				
		薬理学Ⅰ (総論)	1	15	15				
		薬理学Ⅱ (臨床薬理)	1	15	15				
	臨床推論	1	15	15					
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	15				
		人々の暮らしと健康支援	1	15	15				
		カウンセリング概論	1	15	15				
		公衆衛生学	1	30	30		30		
		社会福祉	1	30	30		30		
	看護関係法規	1	30	30		30			
専門基礎分野小計			22	540	300	150	90		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30				
		共通看護技術1	1	30	30				
		共通看護技術2	1	30	30				
		日常生活援助技術1	1	30	30				
		日常生活援助技術2	1	30	30				
		ヘルスアセスメント	1	30	30				
		診療に伴う看護技術1	1	30	30				
		診療に伴う看護技術2	1	15	15				
		看護過程	1	30	30				
		臨床看護総論	1	15	15				
		看護研究の基礎	1	30	30		30		
		専門分野 (基礎看護学) 小計			11	300	255	15	30

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間		
					1年	2年	3年
基礎分野	地域・在宅看護論	地域看護概論	1	30	30		
		地域看護活動の展開	1	15	15		
		家族看護論	1	15	15		
		在宅看護概論	1	15	15		
		在宅看護援助論	1	30	30		
		在宅看護演習	1	30	30		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30		
		成人看護学慢性期援助論	1	30	30		
		成人看護学慢性期演習	1	30	30		
		成人看護学急性期援助論	1	30	30		
		成人看護学急性期演習	1	30	30		
		成人看護学終末期援助論	1	30	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30		
		老年看護学援助論	1	30	30		
高齢者の健康障害と看護		1	30	30			
老年看護学演習	1	15	15				
小児看護学	小児看護学概論	1	15	15			
	小児看護学援助論	1	30	30			
	小児の健康障害と看護	1	30	30			
	小児看護学演習	1	30	30			
母性看護学	母性看護学概論	1	15	15			
	妊娠期・分娩期の看護	1	30	30			
	産褥期・新生児期の看護	1	30	30			
母性機能に障害をもつ人の看護	1	30	30				
精神看護学	精神看護学概論	1	15	15			
	心の健康	1	30	30			
	心の健康障害と看護	1	30	30			
	精神看護学演習	1	30	30			
看護の統合と実践	専門職連携の基礎	1	15	15			
	専門職連携の構築	1	15	15			
	医療安全	1	15	15			
	国際看護	1	15	15			
	災害看護	1	15	15		15	
	看護管理	1	15	15		15	
	統合看護演習	1	30	30		30	
専門分野小計			35	855	135	660	60
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	90		
		地域看護実習Ⅰ	1	45	45		
		地域看護実習Ⅱ	1	45	45		
		在宅看護論実習	2	90	90		90
		成人・老年看護学慢性期実習	2	90	90		90
		成人・老年看護学急性期実習	2	90	90		90
		成人・老年看護学終末期実習	2	90	90		90
		老年看護学実習	2	90	90		90
		小児看護学実習	2	90	90		90
		母性看護学実習	2	90	90		90
		精神看護学実習	2	90	90		90
		統合実習	2	90	90		90
		臨地実習小計			23	1035	90
専門分野小計			69	2190	480	990	720

教育内容	単位	総時間数	1年	2年	3年
基礎分野	14	315	315	0	0
専門基礎分野	22	540	300	150	90
専門分野	69	2190	480	990	720
合計	105	3045	1095	1140	810

評価計画 令和5年度 (2023年)

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者		
基礎分野	論理学		1年	1	30	100	100	内田友子		
	健康科学		1年	1	15	100	100	木村公喜		
	情報リテラシー		1年	1	30	100	100	高崎光浩		
	心理学		1年	1	30	100	100	遠藤史絵		
	成長発達論		1年	1	30	100	100	東巧		
	人間関係論		1年	1	30	100	100	上瀧純一		
	倫理学		1年	1	15	100	100	国越道貴		
	教育学		1年	1	15	100	100	安部芳樹		
	家族社会学		1年	1	30	100	100	永吉守		
	文化人類学		1年	1	15	100	100	永吉守		
	暮らしの科学		1年	1	30	100	100	豊増美喜		
	国際関係論		1年	1	30	100	100	山根健至		
	医療英会話		1年	1	30	100	100	高木仁美		
	運動科学		1年	1	15	100	100	井上真太郎		
専門基礎分野	人体の発生と構造・血液の成分と機能		1年	1	30	100	100	村田潤		
	呼吸・循環の構造と機能		1年	1	30	100	100	村田潤		
	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能		1年	1	30	100	100	北嶋修司		
	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		1年	1	30	100	100	坂本飛鳥		
	生化学		1年	1	30	100	100	北垣浩志		
	病理学		1年	1	30	100	100	中野龍治		
	健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	呼吸器・血液	1年	1	30	17	70	100	池上智美	
		循環器				5	30			
						8				
	健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・女性生殖器)	消化器	2年	1	30	2		100	藤田博正	
							4			70
							6			
		女性生殖器乳腺				4				
						腎泌尿器	2			
						女性生殖器	8			30
	健康障害と治療Ⅲ (脳神経・運動器・感覚器)	脳神経	2年	1	30	15	50	100	大中洋平	
		運動器				9	50			
		感覚器				4				
	健康障害と治療Ⅳ (内分泌・膠原病・感染症・アレルギー)		2年	1	30	100	100	丸山誠代		
	微生物学		1年	1	30	100	100	菖蒲池健夫		
	がんと治療		2年	1	15	100	100	藤田博正		
	栄養学		1年	1	30	100	100	松尾麻衣		
	薬理学Ⅰ (総論)		1年	1	15	100	100	西村直寛		
薬理学Ⅱ (臨床薬理)		2年	1	30	100	100	西村直寛			
臨床推論		2年	1	15	100	100	山口真喜子			
総合医療論		1年	1	15	100	100	樋高克彦			
人々の暮らしと健康支援		1年	1	15	100	100	中原輝子			
カウンセリング概論		2年	1	15	100	100	上瀧純一			
公衆衛生学		3年	1	30	100	100				
社会福祉		3年	1	30	100	100				
関係法規		3年	1	30	100	100				

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者
専門分野	看護学概論		1年	1	30	100	100	太田由美子
	共通看護技術 1		1年	1	30	50	100	坂本清
						50		山口真喜子
	共通看護技術 2		1年	1	30	24	100	永尾早苗
						6		山口真喜子
	日常生活援助技術 1		1年	1	30	100	100	中原輝子
	日常生活援助技術 2		1年	1	30	15	100	中原輝子
						15		永尾早苗
	ヘルスアセスメント		1年	1	30	100	100	中原輝子
	診療に伴う看護技術 1		1年	1	30	100	100	永尾早苗
	診療に伴う看護技術 2		2年	1	15	100	100	山村ひと美
	看護過程		1年	1	30	100	100	古賀恭子
	臨床看護総論		1年	1	15	100	100	樺澤秀美
	看護研究の基礎		3年	1	30	100	100	
	地域看護概論		1年	1	30	100	100	山口真喜子
	地域看護活動の展開		2年	1	15	100	100	納富裕子
	家族看護論		1年	1	15	100	100	太田裕美子
	在宅看護概論		2年	1	15	100	100	太田裕美子
	在宅看護援助論		2年	1	30	100	100	山村ひと美
	在宅看護演習		2年	1	30	100	100	山村ひと美
	成人看護学概論		1年	1	30	100	100	古賀恭子
	成人看護学慢性期援助論		2年	1	30	100	100	中川みどり
	成人看護学慢性期演習		2年	1	30	100	100	古賀恭子
	成人看護学急性期援助論		2年	1	16	50	100	竹本小春
						14		井手宏直
	成人看護学急性期演習		2年	1	30	100	100	山口真喜子
	成人看護学終末期援助論		2年	1	14	70	100	橋本優子
						6		多久島圭子
						10		正木晶子
	老年看護学概論		1年	1	30	100	100	坂本清
	老年看護学援助論		2年	1	30	50	100	坂本清
						50		永尾早苗
	高齢者の健康障害と看護		2年	1	30	50	100	坂本清
						50		片渕知子
	老年看護学演習		2年	1	15	100	100	坂本清
	小児看護学概論		1年	1	15	100	100	工藤広大朗
	小児看護学援助論		2年	1	30	100	100	工藤広大朗
	小児の健康障害と看護		2年	1	30	100	100	井田裕子
	小児看護演習		2年	1	15	100	100	工藤広大朗
	母性看護学概論		2年	1	15	100	100	納富裕子
妊娠期・分娩期の看護		2年	1	16	50	100	酒井枝津子	
					14		(大島玲子)	
産褥期・新生児期の看護		3年	1	16	70	100	酒井枝津子	
					14		納富裕子	
母性機能に障害をもつ人の看護		2年	1	30	100	100	井田裕子	

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者
専門分野	精神看護学概論		2年	1	15	100	100	松本和彦
	心の健康		2年	1	30	100	100	浦川亮介
	心の健康障害と看護		2年	1	30	100	100	松本和彦
	精神看護学演習		2年	1	16	50	100	尾形広知
					14	51		湊一郎
	専門職連携の基礎		1年	1	15	100	100	工藤広大朗
	専門職連携の構築		2年	1	15	100	100	工藤広大朗
	医療安全		2年	1	15	100	100	波多純一
	国際看護		2年	1	15	100	100	藤田さやか
								坂口佳穂里
	災害看護		3年	1	15	100	100	
	看護管理		3年	1	15	100	100	
統合看護演習		3年	1	30	100	100		

# 基礎分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	論理学	講義	1 (30)	1年 前期	内田友子	

授 業 概 要

迅速かつ適切な判断力と明快かつ正確な伝達能力は、医療の現場では特に不可欠である。この授業では、これらの能力の基盤となる論理的な思考や表現力を学ぶ

到 達 目 標

物事に対する考え方の多様性を客観的に把握した上で、状況に応じて最も適切な判断を行い、自分の考えを明確に説明できる論理的思考と伝達能力を身につけることができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	論点の抽出と整理	概念の把握法、状況設定の把握法	
2	論点の抽出と整理	文章の要約法	
3	多角的な読解力	多角的な読解力	
4	文章構成力	語句の使用法 上位、下位概念 具体、抽象 語の外延と内包	
5	文章構成力	文章の書き方 主述の対応 修飾法 文章表現	
6	文章構成力	文章の書き方 文種識別 命題	
7	文章構成力	文章構成法 論証の構造 演繹 帰納	
8	文章構成力	文章構成法 三段論法 トウルミンモデル	
9	文章構成力	文章構成法 誤った推論 ことばの魔術破り	
10	表現力・伝達力	声で意味を明確に伝える技術	
11	表現力・伝達力	声で意味を明確に伝える技術	
12	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
13	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
14	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	健康科学	講義・演習	1 (15)	1年 前期	木村 公喜	

授 業 概 要

医療現場で役立つ生活習慣病の予防・改善、ダイエットや整形外科系疾患のためのトレーニングや健康づくりの実際を修得する。健康科学が仕事としてどう活用されているかを学び、その魅力を学習する

到 達 目 標

生活習慣病の予防・改善、ダイエットや整形外科系疾患のためのトレーニングや健康づくりの実際を修得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	フィットネス理論	人生80年時代と日本人の健康 フィットネスの定義	
2	エアロビクスを楽しむために	エアロビクスの歩み エアロビクスの意義 期待される効果 心拍数と運動強度 目標心拍数の決め方	
3	からだと運動	よくないからだの使い方 アライメント・チェック ウォームアップ 体脂肪を減らすための運動のポイント	
4	からだと食生活	四群点数法で食生活でチェック 1日の食事をチェック 正しくダイエットを始めよう	
5	運動の実践①	Walking エアロビクス	
6	運動の実践②	ヨガストレッチ ピラティクス	
7	運動の実践③	レクリエーション	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	情報リテラシー	講義	1 (30)	1年 後期	高崎 光浩	

授 業 概 要

根拠に基づく医療・看護(EBM：Evidence Based Medicine, EBN：Evidence Based Nursing)を実践するために不可欠な、情報処理に関するリテラシーを身につける。医療分野におけるICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)利活用について理解する。

到 達 目 標

情報通信技術を活用して安全に効率よく操作できる能力を修得できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
						○	○

回数	単元	内 容	担当教員
1	コンピューターの基礎	Windowsの基本操作	
2	コンピューターの基礎	Wordの活用 図や表の作成 罫線を使ったフォーマット作成	
3	コンピューターの基礎	Wordの活用 差し込み印刷を使う 表計算機能の使用 文章を作成する	
4	コンピューターの基礎	Excelの活用 基礎データ入力 基本数式の使い方 レイアウトを整える 印刷の方法	
5	コンピューターの基礎	Excelの活用 グラフの作り方 データベースとしての使い方 関数の入った表の作り方	
6	コンピューターの基礎	プレゼンテーションソフトの活用	
7	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
8	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
9	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
10	情報科学の基礎	コンピューターとネットワーク	
11	医療と情報システム	医療情報とはなにか 医療と情報 看護と情報 病院情報システム	
12	医療と情報システム	病院における看護情報システム 電子カルテについて 経過と現状	
13	院内情報システムと 情報倫理	院内情報システムと情報倫理 要配慮個人情報とは 要配慮個人情報の具 体例	
14	院内情報システムと 情報倫理	個人情報の取り扱い保護と有効活用	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	心理学	講義	1 (30)	1年 前期	遠藤史絵	

授業概要

人の心の多様性、主観性について、様々な心理学の領域を通して学ぶことを目的とする。  
 対人援助職である看護師としていろいろな患者に接する機会があるが、それぞれの患者の多様な気持ちを、患者の立場に立って理解ができるよう学習を進める。

到達目標

心理・行動・身体の3側面からの心のメカニズムを理解できる。相手の身になって話を聞き、理解しようとする態度を身につけることができる。心理的アプローチを学び、様々な側面から患者を援助する方法を修得できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○	○				

回数	単元	内容	担当教員
1	心理学の問題	心理学の発展 心理学の対象 心の見方の歴史 心理学の研究手法	
2	知覚の心理	知覚の成立 知覚の種類 知覚研究の応用	
3	記憶の心理	記憶の諸相 忘却の心理 記憶のくふう	
4	思考・想像・言語の心理	思考・想像の心理 言語の心理	
5	知能の心理と知能検査	知能の心理 知能検査	
6	学習の心理	学習の心理 練習の心理	
7	感情・情緒・情操の心理	感情の諸相 感情・情緒の異常	
8	適応の心理	人と環境 適応・不適応 適応の機制	
9	性格の心理と性格検査	性格の形成 性格の理解	
10	集団の心理	集団の形成と機能 集合行動	
11	発達の心理	発達の原理 発達段階の特徴	
12	カウンセリング	カウンセリングの意義	
13	カウンセリング	カウンセリングの方法	
14	医療と心理学	医療と心理学の役割 患者の心理	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	成長発達論	講義	1 (30)	1年 後期	東 巧	

授 業 概 要

人間の一生涯という全行程を発達のプロセスとしてとらえ、人のライフサイクルにおける各期の身体的・知的・情緒的・社会的な側面が機能的に関連しあって変化していくプロセスを理解し考察する。

到 達 目 標

人間のライフサイクルを理解し、各期における成長、発達の特徴、課題、問題発生の対処法、関係法規、社会問題等をふまえて、人間の発達を理解することができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○	○				

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間と発達	人間発達学とその意義 人間発達学における発達とその関連用語 発達に影響を及ぼす因子	
2	発達理論とその歴史的展開	発達理論を理解する前提 発達理論の歴史的展開 現代の発達理論	
3	乳幼児期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
4	乳幼児期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
5	学童期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
6	学童期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
7	思春期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
8	思春期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
9	青年期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
10	青年期の心と身体	発達に関わる健康問題 健全な発達に必要な支援	
11	成人期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
12	成人期の心と身体	健康問題 健全な発達に必要な支援	
13	老年期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
14	老年期の心と身体	健康問題 健全な発達に必要な支援	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	看護のための人間看護学 舟島なおみ 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	人間関係論	講義	1 (30)	1年 前期	上瀧 純一	臨床心理士

授 業 概 要

講義・グループワークを通して、人間関係について多角的に学ぶ。  
看護職としての患者さんたちへの関わり方について学ぶ。

到 達 目 標

自己理解・他者理解を深め人間関係能力が向上する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○				○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間存在と人間関係	人間関係のとらえかたの次元 人間関係の基本的知識 関係的存在としての人間 社会化としての人間発達	
2	人間存在と人間関係	看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方 対話的關係の展開	
3	社会的相互作用と社会的役割	人間関係における社会的相互作用 社会的相互作用とその諸相 社会的相互作用を規定する要因	
4	社会的相互作用と社会的役割	社会的役割 社会的役割とは 役割関係における葛藤とその解決	
5	社会的相互作用と社会的役割	看護における相互作用と役割 チーム医療における援助的役割関係	
6	社会的相互作用と社会的役割	患者－看護師関係における相互作用 段階別による援助的役割	
7	社会的相互作用と社会的役割	患者－看護師関係における役割の変遷 相互行為から相互浸透行為へ	
8	人間関係の向上へのスキル	対人関係と役割 対人関係の成立 対人関係の維持と崩壊	
9	人間関係の向上へのスキル	態度と対人行動	
10	人間関係の向上へのスキル	集団の特性 集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定 リーダーシップ	
11	人間関係の向上へのスキル	体験学習とは 体験学習のプロセス 体験学習の効果	
12	人間関係の向上へのスキル	体験学習とは 体験学習のプロセス 体験学習の効果	
13	人間関係の向上へのスキル	体験学習での基本姿勢	
14	人間関係の向上へのスキル	体験学習の源流 Tグループ エンカウンターグループ	
15	人間関係の向上へのスキル	体験学習の源流 Tグループ エンカウンターグループ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	倫理学	講義	1 (15)	1年 後期	国越 道貴	

授 業 概 要

将来、看護師として患者の生や死に直接関わっていくとき、適切な判断のもとでケアにあたっていけるようになるよう、医療のなかで目指されるべきまた考慮されるべき価値について学びます。

到 達 目 標

医療上の倫理的問題に対して、倫理的に採用される対処方法ならびに対処方法が取られる理由を説明することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○	○			○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	倫理とは	メタ倫理学 規範倫理学 倫理と道徳 倫理と波、人の行うべき道理 倫理的行為と自律	
2	道徳の拠り所	人格と良心 道徳律と緊張関係 自分が好きであることと倫理	
3	現代医療での倫理上の問題	インフォームド・コンセントについて QOLについて	
4	現代医療での倫理上の問題	ターミナル・ケアについて	
5	現代医療での倫理上の問題	安楽死と尊厳死 臓器移植と脳死	
6	現代医療での倫理上の問題	出生前診断と人工妊娠中絶 生殖補助医療	
7	現代医療での倫理上の問題	医療者の倫理	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	はじめて出会う生命倫理 玉井真理子・大谷いづみ 編 有斐閣 2011
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	教育学	講義	1 (15)	1年 後期	安部 芳樹	

授 業 概 要

看護師と教師は、人間を対象とした仕事である。看護師も“患者様”と患者中心の看護を行うようになっている。学校でも授業評価を生徒が行うなど生徒・児童をないがしろにした教育は難しい傾向にある。  
教育に関する講義を通し、人間理解、社会理解を深め、看護にあたる時の参考になる講義に努める。

到 達 目 標

教育の意義を理解し、教育活動の必要性、教育的かかわりの基本が理解できる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○		○		○	○

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間の成長と教育の意義	教育と物の形成と相違 人間の生成過程の特質 人間の学習と成長・発達 人間の生成への環境の影響	
2	人間の成長と教育の意義	意図的な人間形成作用としての教育 教育の力を左右する諸条件 教育の種類 看護と教育	
3	教育を構成するものについて	教えることと看護の比較 学ぶ・教えるということ 省察 教える一学ぶ関係性	
4	教育の目的	教育目的の考え方 わが国現行法の教育目的と教育目標	
5	学習指導	教育意図・教育実践・教育方法	
6	教育の目標と評価	教育評価の意義と目的 教育評価の方法 自己評価とフィードバック 到達度評価	
7	現代教育の課題	キャリア教育 特別ニーズ教育 インクルーシブ教育 生涯学習	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	家族社会学	講義	1 (30)	1年 前期	永吉守

授 業 概 要

私たちの多くは、家族というものを「あたりまえ」のものだと思っています。確かに家族は地球規模でみても人間の社会に普遍的なものです。しかしながら、家族のありかたは決して「あたりまえ」ではありません。国家や民族によって異なるのみならず、それぞれの家族によっても異なっています。この授業では、そのような家族のありかたについての「あたりまえ」がいかに多種多様であるかを提示し、看護において必要な「家族」および「社会」に関する基礎知識を習得するとともに、それらに対する柔軟な考え方を身につけることを目的とします。

到 達 目 標

家族、社会について自分自身・患者・地域社会のこととひきつけ考えることができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：予定されている回の用語(下記それぞれの回の「内容」)等、各自予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○				○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	イントロダクション、看護学校で家族社会学を学ぶ意義	自己紹介、家族社会学という科目の位置づけ	永吉
2	「社会」とは何か	「社会」という概念の誕生とその歴史的変遷、学問的な位置づけ	永吉
3	社会学と家族社会学	社会学という学問について、家族社会学という学問について	永吉
4	家族・親族・出自・婚姻その1	家族・親族・親戚、家系図、出自	永吉
5	家族・親族・出自・婚姻その2	出自と家族・親族、婚姻形態	永吉
6	家族・親族・出自・婚姻その3	婚姻形態や家族・親族組織のパラエティ	永吉
7	ジェンダーと家族その1	ジェンダーとSOGI	永吉
8	ジェンダーと家族その2	ジェンダーとSOGI、炭鉱に生きた女性とジェンダー	永吉
9	日本の家族の歴史と現代日本の家族その1	イエ制度、家父長制、近代家族、現代家族、ジェンダー	永吉
10	日本の家族の歴史と現代日本の家族その2	イエ制度、家父長制、近代家族、現代家族、ジェンダー	永吉
11	人の死と家族および社会その1	「死」について、社会的な「死」と家族・親族関係	永吉
12	人の死と家族および社会その2	社会的な「死」と家族・親族関係、葬送儀礼	永吉
13	病気・医療と社会・家族その1	「病気」概念・医療と家族(医療社会学・医療人類学の視点より)	永吉
14	病気・医療と社会・家族その2	現代医療と医療社会学・医療人類学、多様な医療・多様な家族	永吉
15	親密圏と公共圏	親密圏、公共圏、グローバルな「新しい親密圏と公共圏」、互酬性	永吉
16	まとめ	まとめ	永吉

評価	レポート100%
テキスト	特に用いないが、下記参考図書(医学書院・系統看護学講座)の該当部分はダウンロードして適宜参照。
参考図書	医学書院系統看護学講座『社会学』、『文化人類学』、『家族看護学』、『在宅看護論』、『家族論・家族関係論』(絶版)ほか適宜指示。
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	文化人類学	講義	1 (15)	1年 前期	永吉守

授 業 概 要

現代はグローバル化（グローバル化）の時代といわれています。それは看護の分野でも例外ではなく、現代日本においては看護や介護の分野で海外からの人々を受け入れる時代に入ってきています。我々は否応なく海外の様々な人々、モノとつながっているのです。そのような中で必要とされるのは、異文化を理解し、さらに自らの文化を客観視したうえで行動する、ということだと思います。文化人類学の授業では、そうした我々の「常識」を解体し、多様な文化を知ったうえで異文化に接する基礎知識を学ぶことを目的とします。

到 達 目 標

文化についての多様なあり方について知識を習得する。異文化・多文化の状況中で医療従事者としての接し方について考えることができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○				○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	イントロダクション、文化人類学と文化概念	文化人類学とはどのような学問か、「文化」の概念	永吉
2	文化相対主義と自民族中心主義	自民族中心主義、文化相対主義、文化相対主義の効用と限界	永吉
3	グローバル化（グローバル化） その1	グローバル化、グローカリゼーション	永吉
4	グローバル化（グローバル化） その2	グローバル化、グローカリゼーション、海外旅行写真にみるグローバル化	永吉
5	移住・移民と多文化共生社会 その1	移住・移民、多文化共生、在日コリアン、ユンヌンチュ	永吉
6	移住・移民と多文化共生社会 その2	移住・移民、多文化共生、定住外国人－患者・医療従事者として－	永吉
7	儀礼・祭りと文化	儀礼・信仰・宗教、儀礼の過程、祭りと祭礼	永吉
8	まとめ	まとめ	永吉

評価	レポート100%
テキスト	特に用いないが、下記参考図書(医学書院・系統看護学講座)の該当部分はダウンロードして適宜参照。
参考図書	医学書院系統看護学講座『文化人類学』、『災害看護学・国際看護学』
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	暮らしの科学	講義	1 (15)	1年 前期	豊増 美喜	

授 業 概 要

人間生活の基盤としての家庭生活，よりよい生活環境のあり方を科学的に捉え，看護につなげられる能力を身につける。

到 達 目 標

人は生きていく上で基盤となる家庭生活・衣生活・住生活に関する基礎的・基本的な知識を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○					

回数	単元	内 容	担当教員
1	家庭生活と家庭経済①	家庭生活の意義 家庭経営・管理	
2	家庭生活と家庭経済②	日本の家庭生活の変化と住まいの役割	
3	食生活①	食生活と健康	
4	食生活②	生活と食事、食事形態 身体機能と栄養	
5	衣生活①	被服の役割と機能	
6	衣生活②	被服による衛生保持	
7	住生活	室内環境 住居の安全と管理	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	国際関係論	講義	1 (15)	1年 後期	山根 健至	

授 業 概 要

グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国だけの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。現在では、他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、具体的な国際問題を検討することを通して世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到 達 目 標

国際問題の解決の取り組みにおける日本の役割について説明できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。

事後学習：当日のテーマに沿って授業の振り返りを行う。

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○		○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは、国際社会の成立、国際社会を形成するファクター	
2	国際機関とその役割	国際機関の役割、国際連合	
3	世界が抱える紛争問題	紛争多発地の状況・テロ（事件）の事例を通して	
4	世界が抱える貧困と格差	各国が抱える貧困と格差、日本の抱える貧困	
5	国際協力とODA	ODAの仕組みと日本の国際協力	
6	国際的な人の移動	国際労働力移動、移民、難民、日本の外国人労働者	
7	平和構築と日本の役割	紛争と平和構築、PKOの仕組みと活動状況、日本の取り組み	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	医療英会話	講義	1 (30)	1年 後期	高木 仁美	

授 業 概 要

医療現場でのやり取り、医療用語を学び、海外からの患者や仕事仲間とのコミュニケーション力をつけることを目指します。

到 達 目 標

医療・看護に関する英語場面で日常的に使用される基礎的英会話を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○						

回数	単元	内 容	担当教員
1	基本的医学英語	病院のスタッフ・施設・物品 診療科と専門医	
2	基本的医学英語	医療従事者と患者及びその関係者 医療用品と器具 薬剤と治療 身体用語	
3	基本的医学英語	身体用語 外部器官 内部器官Ⅰ	
4	基本的医学英語	身体用語 内部器官Ⅱ 筋骨格系	
5	基本的医学英語	病気と症状	
6	患者とのコミュニケーション	あいさつ・自己紹介1 (いろいろなあいさつ)	
7	患者とのコミュニケーション	自己紹介2 (ちょっとした会話)	
8	患者とのコミュニケーション	看護技術1 (検査での表現1)	
9	患者とのコミュニケーション	看護技術2 (検査での表現2)	
10	患者とのコミュニケーション	症状1 (どんな状態?)	
11	患者とのコミュニケーション	症状2 (症状を訴える患者への対応)	
12	患者とのコミュニケーション	受付にて (専門科の名称/初診患者に尋ねること)	
13	患者とのコミュニケーション	会計 (外来予約への対応) 風邪 (風邪の症状の表現) 痛み	
14	患者とのコミュニケーション	入院手続き (病院内の案内) 病室にて (病棟内の案内)	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
基礎	運動科学	講義・演習	1 (15)	1年 前期	井上真太郎	理学療法士

授 業 概 要

「人の動き」及び「運動の構造」の成り立ちを理解する。筋や骨格の構造、力を出すメカニズムなどの身体の構造や機能に関する知識、物体としての身体が動く現象を知るための力学的知識、運動に関する知識を総合的に学習する。日常生活の動作がどのような機能により達成されるか動きの仕組みについての基礎的知識を身につける。

到 達 目 標

日常生活における身体運動を分析的に見る力を習得する。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○					○

回数	単元	内 容	担当教員
1	運動の動きと構造①	筋の種類と構造 筋収縮による力の発生 筋の動きから関節運動 関節の種類	
2	運動の動きと構造②	運動の形態 種類 原理	
3	運動と力学①	力学の基礎 運動の3原則（慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則）	
4	運動と力学②	回転運動 慣性モーメント 関節トルク てこの原理	
5	日常生活動作の運動学①	歩行動作 起居動作	
6	日常生活動作の運動学②	移動動作 移乗動作	
7	日常生活動作の運動学③	食事動作 整容動作 排泄動作 入浴動作	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

# 專門基礎分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	人体の発生と構造・血液の成分と機能	講義	1 (30)	1年 前期	村田 潤	

授 業 概 要

看護実践をするにあたり、その基礎となる正常な人体の構造と機能を正しく理解させることが、本学習の目的である。構造と機能は常に密接な関連があることから、まず人体の基本単位である細胞について理解し、続いて人体を構成する4つの組織の構造と機能を学習する。さらに、人体の発生の意義とそのメカニズムを学ぶことによって、生命の尊さを考える。また、血液の成分と働きを知ることによって、生命をより理解し健康について考える。

到 達 目 標

人体における細胞、組織を構造・機能の両面から学ぶ。また、血液の成分と働きについて理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	人体の構造と機能を学ぶために必要なこと	人体の構造と機能について何を学ぶか。解剖学と生理学の歴史と現在	
2	人体の素材としての細胞・組織①	細胞の構造 細胞を構成する物質とエネルギーの生成	
3	人体の素材としての細胞・組織②	細胞膜の構造と機能 細胞の増殖と染色体	
4	人体の素材としての細胞・組織③	受精と胎児の発生 分化した細胞が作る組織	
5	構造と機能からみた人体	構造からみた人体 機能からみた人体	
6	体液とホメオスタシス①	体液 体液の調節（水の出納・脱水・酸塩基平衡）	
7	体液とホメオスタシス②	内部環境とホメオスタシス	
8	血液の成分と働き①	血液の組成と機能 赤血球 赤血球の数・ヘモグロビン・ヘマトクリット ヘモグロビンの構造と機能	
9	血液の成分と働き②	赤血球の新生 赤血球の破壊 貧血と赤血球増加症	
10	血液の成分と働き③	白血球 顆粒球 リンパ球 単球	
11	血液の成分と働き④	血漿タンパクと赤血球沈降速度 血漿タンパク質 赤血球沈降速度	
12	血液の成分と働き⑤	血小板 血液凝固とその阻止	
13	血液の成分と働き⑥	出血時間・凝固時間 繊維素溶解	
14	血液の成分と働き⑦	血液型（ABO式血液型・Rh式血液型・主要組織適合抗原）	
15	血液の成分と働き⑧	まとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	呼吸・循環の構造と機能	講義	1 (30)	1年 前期	村田 潤	

授 業 概 要

健康と疾病をの仕組みを考えるにあたり、その重要な要素である呼吸と循環のメカニズムを学ぶ

到 達 目 標

呼吸と循環のメカニズムとはたらきについて理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	呼吸器の構造①	呼吸器の構成 上気道（鼻、咽頭、喉頭 発声と構音）	
2	呼吸器の構造②	下気道と肺（気管 気管支 肺）胸膜と縦隔	
3	呼吸①	内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動（気道の機能、肺胞の機能 呼吸のメカニズム 呼吸筋）	
4	呼吸②	呼吸数 1回換気量 死腔 肺胞換気量 予備換気量 予備子機量 肺活量 残気量 1秒量と1秒率	
5	呼吸③	ガス交換とガスの運搬 肺におけるガス交換 吸気呼気のガス組成と血液ガス 酸素・二酸化炭素の運搬	
6	呼吸④	肺の循環と血流 呼吸の神経性調節 化学受容器 呼吸器系の病態生理	
7	心臓の構造①	心臓の構造 心臓の位置と外形 心臓の部屋と弁心臓壁	
8	心臓の構造②	心臓の血管と神経 冠状血管系 冠状循環 心臓に分布する神経	
9	心臓の拍出機能①	心臓の興奮とその伝播 心臓の自律性と歩調とり 興奮の伝播	
10	心臓の拍出機能②	心電図 心臓の収縮	
11	末梢循環系の構造と肺循環	血管の構造 肺循環の血管	
12	全身の動脈	上行大動脈 大動脈弓 胸大動脈 腹大動脈 総腸骨動脈とその枝	
13	全身の静脈とリンパとリンパ管	上・下大静脈 頭部の静脈 上・下肢の静脈 骨盤と腹部の静脈 門脈系 リンパ管の構造とリンパの循環	
14	血液の循環と調節①	血圧・血液の循環 血圧・血液量の調節 循環器系の病態生理	
15	血液の循環と調節②	微小循環,循環器系の病態生理, まとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	講義	1 (30)	1年 前期	北嶋修司	

授 業 概 要

正常な消化・内分泌・腎泌尿・生殖器の構造と機能を学ぶ

到 達 目 標

消化・内分泌・腎泌尿・生殖のメカニズムとはたらきについて理解する。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	栄養の消化と吸収の仕組み ①	口・咽頭・食道の構造と機能 胃の構造とはたらき	
2	栄養の消化と吸収の仕組み ②	小腸の構造とはたらき 大腸の構造とはたらき 5) 腹膜と腸間膜	
3	栄養の消化と吸収の仕組み ③	膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能	
4	内分泌系における調節 ①	分泌物の伝わり方とホルモンの特徴 視床下部-下垂体系	
5	内分泌系における調節 ②	甲状腺と副甲状腺 膵島の構造と機能	
6	内分泌系における調節 ③	副腎の構造と機能 性腺の構造と機能	
7	内分泌系における調節 ④	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	
8	体液の調整と尿の生成 ①	体液の調整と尿の生成 (腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能)	
9	体液の調整と尿の生成 ②	尿細管の構造と機能 傍糸球体装置	
10	体液の調整と尿の生成 ③	クリアランスと糸球体ろ過量 腎臓から分泌される生理活性物質	
11	排泄路	排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿	
12	男性生殖器	精巣と精路と付属生殖腺 男性の生殖機能	
13	女性生殖器	乳腺の構造 卵巣・卵管・子宮・膣の構造 卵巣周期 月経周期	
14	胎児と胎盤	胎盤と臍帯 生殖器の分化と発達 胎児の血液循環	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	講義	1 (15)	1年 前期	坂本飛鳥	理学療法士

授 業 概 要

疾病の発生や病理的变化を理解するためには正常な構造と機能を理解しておく必要がある。本科目では、人体の構造と機能のうち、骨格と筋肉、神経系眼や耳などの構造と機能について学ぶ。

到 達 目 標

脳神経・骨格・筋・感覚のメカニズムと働きについて理解する

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	脊髄と脳	神経細胞と支持細胞 ニューロン・シナプスでの興奮の伝達 神経系の構造 脊髄の構造と機能 脳の構造と機能 脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能	
2	脳の高次機能	脳波と睡眠 記憶 本能行動と行動 中枢神経系の障害 自律神経による内臓機能の調節	
3	運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	運動ニューロン・下行伝導路 体性感覚の受容器の種類 皮膚感覚の感覚受容器の分布 上行伝導路	
4	眼と耳の構造と機能と味覚と嗅覚 疼痛	眼球の構造と眼球付属物 視覚 遠近調節・明暗順応 眼球運動の調節・眼球に関する反射 耳の構造 (聴覚・平衡覚) 味覚と嗅覚 疼痛	
5	からだの指示と運動の仕組み①	骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋	
6	からだの指示と運動の仕組み②	体幹の骨格と筋 脊柱・胸郭 背部の筋・胸部の筋・腹部の筋 上肢の骨格と筋	
7	からだの指示と運動の仕組み③	下肢の骨格と筋 下肢帯・自由下肢の骨格 下肢帯・自由下肢・大腿・下腿・足の筋群、頭頸部の骨格と筋 内臓頭蓋 頭部・頸部の筋 咀嚼筋・表情筋・頸部の筋 筋の収縮	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	生化学	講義	1 (30)	1年 前期	北垣浩志	

授 業 概 要

医療において化学的な知識は不可欠である。その土台に立って生化学という学問は成り立っている。  
 遺伝子治療や代謝制御、抗生物質など、この分野は日進月歩し現代医療にどんどん取り入れられている。生化学は、将来の医療活動の一つの柱となるであろう。生化学を総括的に理解し、抵抗なく勉強していく事は看護師にとって重要である

到 達 目 標

生体を構成する化合物の変化を通して、生命現象を化学的に理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○			○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	生化学を学ぶための基礎知識	化学の基礎知識 細胞の構造と機能	
2	糖質	糖質の種類 単糖の構造と性質 二糖の構造と性質 多糖の構造と性質	
3	脂質	脂質の種類と役割 脂質各論 脂肪酸 中性脂肪 リン脂質 コレステロール	
4	リポタンパク質	リポタンパク質の生成と役割	
5	タンパク質	タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造と分類	
6	核酸	塩基 ヌクレオシドとヌクレオチド DNAとRNAの構造	
7	代謝のあらまし	代謝とは 消化・吸収された栄養素の体内での代謝	
8	酵素	酵素に関する基礎知識 酵素反応 酵素反応の阻害・酵素の分類	
9	ビタミンと補酵素	ビタミンとは ビタミンの種類と生理作用	
10	糖質代謝	グルコースの分解 糖新生 グルコーゲンの代謝	
11	タンパク質代謝	タンパク質の消化と吸収	
12	脂質代謝	脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解 ケトン体の産生と利用 脂肪酸・トリグリセリド・コレステロールの生合成	
13	代謝の異常	メタボリックシンドローム	
14	遺伝情報とは	複製 転写 翻訳 DNAの損傷と修復	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 生化学 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	病理学	講義	1 (30)	1年 後期	中野龍治	

授 業 概 要

人体の正常状態と対比して病的な状態をことを学ぶ。人体の病気にはどのようなものがあるのか、その原因や生じた変化を主に形態的な面から学びます。

到 達 目 標

病理・病態および症候の基本的生理を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	病理学で学ぶこと	看護と病理学 病気の原因 疾病の分類	
2	先天異常と遺伝子異常 ①	先天異常とは 遺伝子異常 遺伝性疾患	
3	先天異常と遺伝子異常 ②	染色体異常による疾患 胎児の障害 先天異常・遺伝性疾患の診断	
4	循環障害①	局所性の循環障害 充血 うっ血 虚血	
5	循環障害②	虚血 血栓症・塞栓症 梗塞	
6	循環障害③	全身性の循環障害 ショック	
7	循環障害④	リンパの循環障害 浮腫 滲出液と濾出液	
8	炎症と免疫、膠原病①	炎症の経過 創傷治癒 炎症の治療	
9	炎症と免疫、膠原病②	炎症の各型 免疫 アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 移植と免疫	
10	腫瘍①	腫瘍とは何か 腫瘍の形態と分化度	
11	腫瘍②	腫瘍の悪性度 腫瘍の分類	
12	腫瘍③	腫瘍の発生病理（環境因子・内因）	
13	悪性腫瘍の転移と進行度	腫瘍の広がり リンパ性転移 血行性転移 播種 がんの進行度 腫瘍の診断と治療	
14	老化と死	細胞の老化と個体の老化 加齢に伴う諸臓器の変化 個体の死	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	講義	1 (30)	1年 後期	池上智美/堺正仁/福永充	医師

授 業 概 要

科目名「人体の構造と機能・血液の成分と機能」や「呼吸・循環の構造と機能」で学んだ、呼吸器・循環器・血液造血器の正常な働きを振り返り、それらの異常の状態を学ぶ。また、疾患の状態を判断するための検査やそれらを回復させるための治療の基本について学ぶ。

到 達 目 標

呼吸器・循環器・血液造血器疾患の理解ができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	呼吸器疾患①	呼吸器の構造と機能振り返り 呼吸器感染症の病態と検査・治療 (風邪と気管支炎 インフルエンザ・肺炎・結核・非結核性抗酸菌症)	池上
2	呼吸器疾患②	アレルギー性呼吸器疾患の病態と検査・治療 (気管支喘息など)	池上
3	呼吸器疾患③	慢性閉塞性肺疾患の病態と検査・治療	池上
4	呼吸器疾患④	肺腫瘍 (良性腫瘍と悪性腫瘍) の病態と検査・治療	池上
5	呼吸器疾患⑤	呼吸不全の種類や分類、病態生理・検査・治療	池上
6	呼吸器疾患⑥	その他の呼吸器疾患の病態生理と検査・治療	池上
7	循環器疾患①	症状とその病態生理	福永
8	循環器疾患②	虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症) の病態生理と検査・治療	福永
9	循環器疾患③	心不全・高血圧症の病態生理と検査・治療	福永
10	循環器疾患④	心不全・高血圧症の病態生理と検査・治療	福永
11	循環器疾患⑤	不整脈・弁膜症・感染性心内膜炎の病態生理と検査・治療	堺
12	循環器疾患⑥	動脈系疾患・静脈系疾患・高脂血症やその他の病態生理と検査・治療	堺
13	血液・造血器疾患①	血液造血器のおさらい、主な検査や治療 赤血球系の疾患の病態生理と検査・治療	池上
14	血液・造血器疾患②	白血球系の疾患 (白血病やリンパ系疾患) の病態生理と治療・検査	池上
15	血液・造血器疾患③	出血性疾患の病態生理と治療・検査	池上
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学「2」呼吸器 「3」循環器 「4」血液造血器
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・女性生殖器)	講義	1 (30)	2年 前期	藤田博正 他6名

授 業 概 要

科目名「消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能」で学んだ、消化・腎泌尿器・女性生殖器の正常な働きを振り返り、それらの異常の状態を学ぶ。また、疾患の状態を判断するための検査やそれらを回復させるための治療の基本について学ぶ。

到 達 目 標

消化器・腎泌尿器・女性生殖器疾患の理解ができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	消化器疾患①	食道疾患（食道がん 食道アカラシア 逆流性食道炎）の病態生理と治療・検査	藤田先生
2	消化器疾患②	胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍 胃がんなど）の病態生理と治療・検査	園田先生
3	消化器疾患③	胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍 胃がんなど）の病態生理と治療・検査	園田先生
4	消化器疾患④	腸および腹膜疾患（腸炎 腹膜炎 虫垂炎 ヘルニア イレウス 腸内寄生虫疾患 消化管憩室 腸管ポリープ 結腸癌、直腸癌 肛門疾患）の病態生理と検査・治療	伊達先生
5	消化器疾患⑤	腸および腹膜疾患（腸炎 腹膜炎 虫垂炎 ヘルニア イレウス 腸内寄生虫疾患 消化管憩室 腸管ポリープ 結腸癌、直腸癌 肛門疾患）の病態生理と検査・治療	伊達先生
6	消化器疾患⑥	肝臓の疾患（肝炎 肝硬変症 門脈圧亢進症 肝臓がん 肝外傷）の病態生理と検査・治療	山元先生
7	消化器疾患⑦	胆嚢の疾患（胆石症 胆のう炎および胆管炎 胆管がん 胆のうがん 胆のうポリープ）の病態生理と検査・治療	山元先生
8	消化器疾患⑧	膵臓の疾患（膵炎 膵臓がん）や急性腹症、腹部外傷の病態生理・検査・治療	山元先生
9	腎・泌尿器疾患①	腎・泌尿器の構造と機能と腎・泌尿器疾患の主な症状と検査や治療	前田先生
10	腎・泌尿器疾患②	原発性糸球体腎炎（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 全身性感染症による糸球体腎炎）の病態生理と検査・治療	前田先生
11	腎・泌尿器疾患③	腎不全（急性腎不全・慢性腎不全）の病態生理と検査・治療	前田先生
12	腎・泌尿器疾患④	全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症 痛風腎、高尿酸血症に続発する腎障害 アミロイド腎など）やその他の病態生理と検査・治療	前田先生
13	女性生殖器疾患①	女性生殖器の構造と機能 女性生殖器疾患の主な症状と検査・治療 月経異常 月経随伴症状 更年期障害の病態生理・検査・治療	平井先生
14	女性生殖器疾患②	子宮・卵管・卵巣疾患 骨盤腹膜および骨盤結合組織の疾患の病態生理・検査・治療 性感染症 不妊症	平井先生
15	女性生殖器疾患③	乳腺疾患の病態生理と検査・治療	徳永先生
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学「5」消化器 「8」腎泌尿器 「9」女性生殖器
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	健康障害と治療Ⅲ (脳神経・運動器・感覚器)	講義	1 (30)	2年 前期	大中洋平・内村健一郎 森田和	医師

授 業 概 要

科目名「脳神経・骨格・筋感覚の構造と機能」で学んだ、脳神経・骨格・筋・感覚の正常な働きを振り返り、それらの異常の状態を学ぶ。また、疾患の状態を判断するための検査やそれらを回復させるための治療の基本について学ぶ。

到 達 目 標

脳神経・運動器・感覚器疾患の理解ができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	脳神経疾患①	脳・神経の構造と機能 脳神経疾患の代表的な症状と検査や治療 第2章	大中先生
2	脳神経疾患②	脳・神経の構造と機能 脳神経疾患の代表的な症状と検査や治療 第3章・第4章	大中先生
3	脳神経疾患③	脳疾患（脳血管障害）の病態生理と検査や治療 第5章	大中先生
4	脳神経疾患④	脳疾患（脳腫瘍 脳の感染症 水頭症 頭部外傷）の病態生理と検査や治療 第5章	大中先生
5	脳神経疾患⑤	脳・神経の変性疾患や脊髄疾患の病態生理と検査や治療 第5章	大中先生
6	脳神経疾患⑥	末梢神経疾患や神経疾患脳・神経系の感染症や中毒の病態生理と検査や治療 第5章 神経・筋疾患の病態生理と検査や治療	大中先生
7	脳神経疾患⑦	てんかん・認知症の病態生理と検査や治療 第5章	大中先生
8	運動器疾患①	運動器構造と機能 運動器疾患の代表的な症状と検査や治療 第3章	内村先生
9	運動器疾患②	運動器構造と機能 運動器疾患の代表的な症状と検査や治療 第4章	内村先生
10	運動器疾患③	骨折や脱臼 捻挫の病態生理や治療・検査 第5章～	内村先生
11	運動器疾患④	骨・関節の炎症性疾患（変形性関節症 関節リウマチ 痛風など）の病態生理や検査と治療	内村先生
12	運動器疾患⑤	代謝性骨疾患 骨腫瘍 の病態生理や検査・治療	内村先生
13	運動器疾患⑥	上肢や下肢の主な疾患の病態生理や検査・治療	内村先生
14	感覚器疾患①	主な眼科疾患の病態生理と検査・治療	森田先生
15	感覚器疾患②	主な耳鼻科疾患の病態生理と治療・検査	森田先生
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学「7」脳・神経 「10」運動器 「13」眼 「14」耳鼻咽喉
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	健康障害と治療IV (内分泌・膠原病・感染症・アレルギー)	講義	1 (30)	2年 後期	丸山誠代	医師

授 業 概 要

科目名「消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能」や「微生物学」で学んだ、正常な働きを振り返り、それらの異常の状態を学ぶ。また、疾患の状態を判断するための検査やそれらを回復させるための治療の基本について学ぶ。

到 達 目 標

内分泌・膠原病・感染症・アレルギー疾患の理解ができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	内分泌・代謝疾患の理解①	視床下部-下垂体前葉系疾患	
2	内分泌・代謝疾患の理解②	視床下部-下垂体後葉系疾患 尿崩症 ADH	
3	内分泌・代謝疾患の理解③	甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症	
4	内分泌・代謝疾患の理解④	副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患	
5	糖尿病①	糖尿病の分類と診断 糖尿病の治療 ①食事療法②運動療法③薬物療法	
6	糖尿病②	糖尿病の慢性合併症とその治療 ①糖尿病性網膜症 ②糖尿病性腎症 ③糖尿病性神経障害	
7	肥満症とメタボリックシンドローム	肥満症とメタボリックシンドローム 高脂血症 尿酸代謝障害	
8	アレルギー疾患の理解①	アレルギーの発生機序と分類 呼吸器のアレルギー	
9	アレルギー疾患の理解②	消化器のアレルギー 皮膚のアレルギー 薬物のアレルギー アナフィラキシー	
10	膠原病の理解①	関節リウマチ 全身性エリテマトーデス	
11	膠原病の理解②	全身性硬化症 血管炎症候群 多発性筋炎および皮膚筋炎 混合性結合組織病	
12	膠原病の理解③	膠原病類縁疾患 抗リン脂質抗体症候群 シェーグレン症候群 ベーチェット病	
13	感染症の理解①	感染症が成立する要件 感染症の症状 疾患の理解 発熱・不明熱	
14	感染症の理解②	真菌感染症 HIV感染症と日和見感染 新興再興感染症 多剤耐性菌感染症	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 , 内分泌 消化 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	微生物学	講義	1 (30)	1年 後期	菖蒲池健夫

授 業 概 要

看護者は、来院者から感染することもあれば、来院者に感染させることもある。  
 感染の原因になる生物（細菌・真菌・原虫・ウイルス）の性質を理解し、ヒトと微生物とが関わることでおこる種々の反応を学ぶ。感染がヒトと微生物との相互作用の結果によるものであることを理解することにより、医療現場における感染を防ぎ、来院者を適切に看護する能力を養う。

到 達 目 標

微生物の種類と生体に及ぼす影響や感染に対する生体防御機構について理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む  
 事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	微生物と微生物学	微生物の種類 微生物学の歴史 感染症の現状 世界三大感染症	
2	微生物感染の機構	感染とは 感染源 感染経路 宿主-病原体関係 易感染性宿主 日和見感染	
3	生体防御機構①	自然免疫のしくみ 病原体の認識と炎症の惹起 補体 食細胞	
4	生体防御機構②	獲得免疫のしくみ 液性免疫 細胞性免疫 抗原 抗体 予防接種の意味	
5	細菌①	細菌の構造と特徴 グラム染色 常在菌叢 グラム陽性球菌	
6	細菌②	グラム陰性球菌 グラム陰性桿菌 抗菌薬と薬剤耐性 人獣共通感染症	
7	細菌③	グラム陽性桿菌 細菌性食中毒 細菌の毒素 トキソイド 血清療法	
8	細菌④	特殊な細菌 菌交代症 代表的な病原因子	
9	ウイルス①	ウイルスの構造と特徴 ウイルスは菌か？ 動物から感染するウイルス	
10	ウイルス②	こどものウイルス感染症と予防接種 ヘルペスウイルス TORCH症候群 感染症法	
11	ウイルス③	肝炎ウイルスの違い がんに関連するウイルス インフルエンザ 風邪 HIVとエイズ	
12	真菌と原虫	真菌・原虫の構造と特徴 真菌・原虫感染症	
13	感染の予防①	滅菌と消毒 ワクチンと予防接種	
14	感染の予防②	院内感染の特徴と予防	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 微生物学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	がんと治療	講義	1 (15)	2年 前期	藤田博正	医師

授 業 概 要

1981年以降がんはわが国の死因別死亡率の第1位である。超高齢社会の現在、わが国では今後がんの罹患者は増加し、死亡者数も増加すると予測されている。しかし、その一方で、がんの診断や治療法の開発は画期的に進み、分子生物学や遺伝学の発達に伴いがん医療においては最新の知識と技術が開発され日々の診療・ケアに導入され、2016年にはがん患者の5年生存率の全国推計値は62.1%に向上し、治療率の改善に成果を上げている。がんに対しては、早期発見・早期治療を行うことで治療率を高めることに加え、がんとの共生により生存率を高めている。現在はがん対策推進基本計画のもと、がん死亡者数の減少、苦痛の軽減と療養生活の質の向上・維持を目指し国と地方公共団体や患者を含めた国民が一体となってがん対策に取り組んでいる。国民の2人に1人ががんにかかるかと推計されており、看護師として現在のがんの病態生理や日々進歩するがん医療について学ぶ必要がある。

到 達 目 標

わが国のがんの特徴と治療を理解することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	がん医療の現在	がん医療の現状	
2	がんの病態と診断	がんの病態と臨床経過	
3	がんの治療①	手術療法	
4	がんの治療①	放射線療法	
5	がん治療③	薬物療法	
6	緩和ケア	緩和ケア	
7	がんの予防と早期発見	がんの予防と早期発見	
8	終講時試験	まとめ/終講時試験 (100点)	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	栄養学	講義	1 (30)	1年 後期	松尾麻衣	管理栄養士

授 業 概 要

人間が生きていく上で欠かすことのできない栄養の基礎的知識および臨床栄養の基礎的知識を身に付ける。この科目は、生化学で学んだ、各栄養素の働きを基に実際の食事を摂る際にどのような工夫や注意点、実際のアセスメントの方法を学ぶ。

到 達 目 標

人間が生きていく上で欠かすことのできない栄養の基礎的知識および臨床栄養の基礎について理解できる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間栄養学と看護	栄養と栄養素 看護と栄養 栄養状態の評価の目的 栄養状態の評価・判定法	
2	栄養素の種類とはたらき	炭水化物 脂質 タンパク質 ビタミン ミネラル	
3	エネルギー代謝	食品のエネルギー 三大栄養素のエネルギー エネルギーの換算係数 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費	
4	栄養素の消化・吸収	栄養素の消化・吸収 栄養素の体内運搬	
5	栄養素の体内代謝	肝臓の働き 血糖 血漿脂質 代謝産物の排泄	
6	ライフステージにおける栄養	乳児期・幼児期の栄養アセスメント	
7	ライフステージにおける栄養	成人期の栄養アセスメント	
8	ライフステージにおける栄養	妊娠期・授乳期の栄養アセスメント	
9	ライフステージにおける栄養	高齢期の栄養アセスメント	
10	病院食	病院食の意義と種類	
11	病院食	循環器疾患患者の食事療法 消化器疾患患者の食事療法	
12	病院食	栄養・代謝疾患患者の食事療法 腎疾患患者の食事療法 食物アレルギー疾患患者の食事療法	
13	病院食	小児疾患患者の食事療法 術前・術後患者の食事療法 在宅療養患者の食事療法	
14	栄養補給法	経腸栄養 静脈栄養	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 「医学書院」
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	薬理学Ⅰ(総論)	講義	1 (15)	1年 後期	西村直寛	薬剤師

授 業 概 要

薬物の作用機序について、生化学や人体の楮と機能で学んだ既習内容を基に特徴を理解し、薬物療法を受ける人々への看護の基礎を学ぶ。

到 達 目 標

薬物の作用機序および薬物療法に対する基礎が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	薬物の種類や作用①	薬物による病気の治療 薬が作用するしくみ(薬力学)	
2	薬物の種類や作用①	薬の体内挙動 薬物の投与経路 経口 舌下 直腸内 皮膚 注射 その他	
3	薬物の種類や作用①	薬物の吸収 分布 代謝と排泄 治療において重要となる薬物動態	
4	薬物の種類や作用①	薬物相互作用(薬物動態的相互作用 薬力学的相互作用)	
5	薬物の種類や作用①	薬物の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性	
6	薬と法律	医薬品に関する法律	
7	看護業務に必要な薬の知識	薬に関する単位 処方箋 添付文書	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	薬理学Ⅱ (臨床薬理)	講義	1 (15)	2年 後期	西村直寛	薬剤師

授 業 概 要

薬理学Ⅰで学んだ薬物一般に共通する知識や健康障害と治療で学んだ疾患や治療を踏まえ、個々の薬物の使用目的や作用、有害作用禁忌などについて学び、看護実践に役立てる。

到 達 目 標

治療薬の種類と働きについて理解することが出来る。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○		○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	循環器系に作用する薬	降圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬 脂質異常症治療薬 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 血液に作用する薬物	
2	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	消化器系に作用する薬物消化性潰瘍治療薬 健胃・消化薬と消化管運動促進薬 制吐薬 下剤と止痢薬 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 生殖器・泌尿器系に作用する薬	
3	感染症、抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗菌薬 抗真菌薬・抗ウイルス薬 抗寄生虫薬 炎症と抗炎症薬 関節リウマチ治療薬 痛風・高尿酸血症治療薬	
4	抗がん薬 免疫治療薬	がん治療に関する基礎事項 細胞障害性抗がん薬 分子標的薬 免疫抑制薬 免疫増強薬・予防接種	
5	末梢での神経活動に作用する薬物①	中枢神経系のはたらきと薬物 全身麻酔薬 催眠薬・抗不安薬	
6	末梢での神経活動に作用する薬物②	抗精神病薬 抗うつ薬・気分安定薬 パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬	
7	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬 甲状腺疾患治療薬 視床下部・下垂体ホルモン 骨粗しょう症治療薬 治療薬としてのビタミン	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	臨床推論	講義 演習	1 (15)	2年 後期	山口真喜子	看護師

授 業 概 要

臨床判断能力を養う基盤として、専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）や病理学、薬理学などの学習内容を踏まえ、患者に起きている状態から何が考えられるのか推論する思考過程を学ぶ。

到 達 目 標

患者に起きている状態から何が考えられるのか推論する思考過程を理解することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	臨床推論モデル	直観的判断（ヒューリスティック） 網羅的判断（アルゴリズム・フレームワーク） 仮説演繹法 診断的理由付け 新たな視点からの判断	
2	意識障害がある患者①	既往歴 現病歴 性別 年齢 生活習慣 初期対応時の所見から考える 個人→グループワーク	
3	意識障害がある患者②	考えられる疾患や必要な検査を各グループ発表し、クラスで全体討議を行う	
4	意識障害がある患者③	その後の経過、検査結果から考えられる疾患を導き出す グループワーク	
5	腹痛を訴える患者①	既往歴 現病歴 性別 年齢 生活習慣 初期対応時の所見から考える 個人→グループワーク	
6	腹痛を訴える患者②	考えられる疾患や必要な検査を各グループ発表し、クラスで全体討議を行う	
7	腹痛を訴える患者③	その後の経過、検査結果から考えられる疾患を導き出す グループワーク	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	総合医療論	講義	1 (15)	1年 前期	樋高克彦	医師

授 業 概 要

今日の医療の新しい展開について理解し、医療や看護の原点について改めて考える。また、保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点やその背景について理解することを目的としている。

到 達 目 標

保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点と、その背景を理解することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○	○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	医療と看護の原点	命について考える 健康の捉え方 病の体験	
2	医療の歩みと医療観の変遷	現代医学の起源 医療観の移りかわり	
3	私たちの生活と医療	私たちの生活と保健・福祉行政 障害者のノーマライゼーションとインクルージョン	
4	科学技術の進歩と前代医療の最前線	現代医学と先進医療技術の最前線 再生医療	
5	現代医療の新たな課題	薬剤の副作用と手術の合併症 医療と法制度	
6	医療を見つめ直す新しい視点	臨床疫学 医療における合理的判断 患者の安全 医療の管理と評価	
7	保健・医療・介護・福祉の近未来像	病院、施設でのケアから生活の場におけるケア	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 「医学書院」
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	人々の暮らしと健康支援	講義	1 (15)	1年 前期	中原輝子	看護師

授 業 概 要

日本全国の地域について、気候や地域の文化などが人々の生活に与える影響を調べ、看護の視点から“健康”とは、“支援”とはを考える。グループ学習を通し、国や地方自治体、会社（企業）などの様々な健康に関する取り組みを調べ、健康支援の実際を学ぶ。

到 達 目 標

日本各地の自然環境、歴史的背景、環境問題、人口分布、文化と生活への影響を理解することができる。人々の暮らしを支える健康支援について理解することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○		○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	日本諸地域の特徴	九州地方 中国地方 近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方 の自然環境や災害 人口分布 都市や工業 産業の特徴 歴史的背景や文化について グループワーク	中原
2	日本諸地域の特徴	日本諸地域の特徴について プレゼンテーション 文化や歴史、気候が健康に与える影響について考える	中原
3	健康とは何か	健康とは何か グループワーク プレゼンテーション	中原
4	法律と健康	健康を保つための法律について グループワーク	中原
5	健康を保つための機関①	健康を保つための国、県、市町村の関係機関について グループワーク	中原
6	健康を保つための機関②	健康を保つための国、県、市町村の関係機関について グループワーク	中原
7	健康を保つための機関③	プレゼンテーション まとめ	中原
8	終講時試験	まとめ/レポート	中原

評価	レポート100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門基礎	カウンセリング概論	講義	1 (15)	2年 前期	上瀧純一	臨床心理士

授 業 概 要

対象者やその家族、他の保健医療専門職、地域社会と密接に関連していくことが不可欠である。その場面において、相手の思いや期待などを理解し、専門職として必要な情報提供や説明を行い、協働でケアを提供していくための合意と人間関係の構築が必要である。とくに他者を理解し、人間関係を作るために役立つ理論や技法に焦点をあてて学ぶ。

到 達 目 標

看護師として人間関係を構築する理論と技法を理解し活用できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○		○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	コミュニケーション	コミュニケーションとは 対人コミュニケーション	
2	カウンセリングと心理療法 ①	カウンセリング・心理療法の理論とスキル① (支持的精神療法・来談者中心療法)	
3	カウンセリングと心理療法 ②	カウンセリング・心理療法の理論とスキル② (精神力動精神療法・家族療法)	
4	カウンセリングと心理療法 ③	カウンセリング・心理療法の理論とスキル③ (認知療法・認知行動療法)	
5	カウンセリングと心理療法 ④	看護への応用	
6	コーチング	コーチングの理論とスキル 看護への応用	
7	アサーティブコミュニケーション	アサーションの理論とスキル 看護への応用	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験と演習・レポートでの総合評価
テキスト	系統別看護学講座 基礎分野 人間関係論
参考図書	
留意事項	

# 専門分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	看護学概論	講義	1 (30)	1年 前期	太田 裕美子	看護師

授 業 概 要

“看護の目的”や“看護とは何か”を理解し、看護の対象を的確に捉え、看護の機能・役割を理解するための基礎的学習内容とした。また、看護専門職としての倫理についての学習も含めている。「人間関係論」や「心理学」で学んだ知識を活かし、看護の対象や看護の役割を理解し、専門科目に繋がる科目である。

到 達 目 標

看護の概念及び看護の機能と役割について理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	看護とは①	看護の本質	
2	看護とは②	看護の役割と機能	
3	看護とは③	看護の継続性と情報共有	
4	看護とは④	さまざまな看護理論 ナイチンゲール ヘンダーソン など	
5	看護とは⑤	発表	
6	看護の対象の理解①	生活者としての人間：「生活」の4つ側面	
7	看護の対象の理解②	看護の対象としての家族・集団・地域	
8	国民の健康・生活の全体像の把握①	健康のとらえ方	
9	国民の健康・生活の全体像の把握②	国民の健康状態 国民のライフサイクル	
10	看護職の資格と養成にかかる制度①	看護職の資格・養成制度・就業状況	
11	看護職の資格と養成にかかる制度②	看護職者の継続教育とキャリア開発	
12	看護における倫理①	医療専門職の倫理規定	
13	看護における倫理②	患者の権利とインフォームドコンセント	
14	看護における倫理③	看護実践における倫理問題への取り組み	
15	看護の提供	看護をめぐる制度と政策 医療安全 災害における看護	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	課題30% 筆記試験70%
テキスト	系統看護学講座 看護学概論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	共通看護技術1	講義 演習	1 (30)	1年 前期	坂本清 山口真喜子	看護師 看護師

授 業 概 要

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。「運動科学」や「人間関係論」で学んだ既習の知識を活用し看護における安全・安楽な技術や看護・医療とコミュニケーションを学ぶ。本科目の学習内容は「共通看護技術2」「日常生活援助技術1」「日常生活援助技術2」へ繋がる。

到 達 目 標

看護技術の位置づけを理解し、看護に共通する技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	看護技術とは	看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術を適切に実践するための要素 患者の権利擁護 倫理的判断	山口
2	看護における安全・安楽①	スタンダードプリコーション 衛生学的手洗い（演習）	山口
3	看護における安全・安楽②	手指消毒を行う場面・タイミングについて	山口
4	看護における安全・安楽③	看護における安全・安楽の意義	山口
5	安楽な姿勢と動作①	基本的活動の基礎知識 姿勢を保持する機能	山口
6	安楽な姿勢と動作②	基本的活動の基礎知識 姿勢を保持する機能	山口
7	安全・安楽で効果的な動きのための技術①	基本体位 体位変換 安楽な体位 ボディメカニクス・重心・安定性	山口
8	安全・安楽で効果的な動きのための技術②	基本体位 体位変換 安楽な体位 ボディメカニクス・重心・安定性	山口
9	コミュニケーションの技術①	コミュニケーションとは 看護・医療とコミュニケーション コミュニケーションの構成要素と成立要素	坂本
10	コミュニケーションの技術②	関係構築のためのコミュニケーション 接近的行動と非接近的行動	坂本
11	コミュニケーションの技術③	傾聴の技術	坂本
12	コミュニケーションの技術④	情報収集の技術	坂本
13	コミュニケーションの技術⑤	説明の技術 アサーティブネス	坂本
14	コミュニケーションの技術④	リフレクション プロセスレコード	坂本
15	コミュニケーションの技術⑤	プロセスレコード/コミュニケーション障害への対応	坂本
16	終講時試験	まとめ/筆記試験	山口・坂本

評価	筆記試験(評価には授業態度・レポート提出を含む)
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	共通看護技術2	講義 演習	1 (30)	1年 後期	永尾早苗/山口真喜子	看護師

授 業 概 要

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。「看護学概論」で学んだ知識を活かし、「診療に伴う看護技術1」や「臨床看護総論」に繋がる科目である。

到 達 目 標

看護技術の位置づけを理解し、看護に共通する技術を習得する。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	感染防止の技術①	感染とその予防の基礎知識 感染予防における看護師の責務と役割	永尾
2	感染防止の技術②	感染成立の条件 感染経路別予防策（接触予防策・飛沫予防策・空気予防策）	永尾
3	感染防止の技術③	標準予防策 （基礎知識・対策の実際・個人防護用具）	永尾
4	感染防止の技術④	洗浄・消毒・滅菌（消毒方法・無菌操作・ガーゼ交換の方法）	永尾
5	感染防止の技術⑤	感染性廃棄物の取扱い（基礎知識・対策の実際）	永尾
6	創傷管理技術①	褥瘡予防とは （援助の基礎知識・予防の方法）	永尾
7	創傷管理技術①	創傷管理の基礎知識 （創傷治癒過程・創傷処置・テープ交換の方法）	永尾
8	創傷管理技術②	包帯法・三角巾（援助の基礎知識・援助方法）	永尾
9	安全確保の技術①	安全確保の基礎知識（誤薬防止・チューブ類の事故防止・転倒・転落防止・患者誤認防止）	永尾
10	安全確保の技術②	安全確保の基礎知識（チューブ固定と管理方法）	永尾
11	学習支援の実際①	看護における学習支援 看護師の役割としての学習支援	永尾
12	学習支援の実際②	健康に生きることを支える学習支援	永尾
13	学習支援の実際③	事例をもとに、学習支援の方法を考える。（グループワーク）	山口
14	学習支援の実際④	事例をもとに、学習支援の方法を考える。（グループワーク）	山口
15	学習支援の実際⑤	発表	山口
16	終講時試験	筆記試験	山口/永尾

評価	筆記試験100%
テキスト	医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	日常生活援助技術1	講義 演習	1 (30)	1年 前期	中原輝子	看護師

授 業 概 要

「共通看護技術1」の知識を活かし、人間の生活にとっての「環境」、生命維持にとっての「活動と休息」「食」の意義について理解し、対象者の日常生活援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。グループ活動による演習を通して、探究行動をとりながら技術の原理・原則を見出していく。

到 達 目 標

「環境」「活動と休息」「食」に関する援助を安全・安楽に実施することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	快適な環境のための看護技術①	人間の生活にとっての「環境」 療養環境の観察	中原
2	快適な環境のための看護技術②	ベッドメイキング	中原
3	快適な環境のための看護技術③	臥床患者のリネン交換	中原
4	快適な環境のための看護技術④	臥床患者のリネン交換 快適な環境のための援助技術	中原
5	活動・休息の援助①	同一体位の体験から 活動・休息の意義	中原
6	活動・休息の援助②	水平移動・体位変換	中原
7	活動・休息の援助③	水平移動・体位変換 歩行援助	中原
8	活動・休息の援助④	車椅子の移乗・移送	中原
9	活動・休息の援助⑤	車椅子の移乗・移送 ストレッチャー	中原
10	活動・休息の援助⑥	同一体位の体験～グループ発表	中原
11	活動・休息の援助⑦	活動・休息の援助 環境調整 リラクゼーション他	中原
12	食生活への援助①	食事と栄養摂取 食行動の分析	中原
13	食生活への援助②	食に関する援助 食事介助	中原
14	食生活への援助③	食に関する援助 食事介助	中原
15	食生活への援助④	疾病時の食事と援助 経鼻栄養法による流動食注入 経口・経管、経静脈	中原
16	終講時試験	筆記試験	中原

評価	実技試験30% 筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術II
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	日常生活援助技術2	講義	1 (30)	1年 後期	中原輝子/永尾早苗	看護師

授 業 概 要

既習の「共通看護技術1」「日常生活援助技術1」の知識を活かし、人間の生活にとっての「衣生活」「清潔」「排泄」の意義を理解し、対象者の日常生活援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。グループ活動による演習を通して、探究行動をとりながら技術の原理・原則を見出していく。

到 達 目 標

「衣生活」「清潔」「排泄」に関する援助を安全・安楽に実施することができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	導入	事例について清潔の援助を考える	中原
2	衣生活の援助①	学習内容発表 寝衣交換	中原
3	衣生活の援助②	寝衣交換（和式・セパレート式）	中原
4	清潔の援助①	全身清拭	中原
5	清潔の援助②	全身清拭	中原
6	清潔の援助③	入浴介助、部分浴：手浴	永尾
7	清潔の援助④	部分浴：足浴	永尾
8	清潔の援助⑤	洗髪	中原
9	清潔の援助⑥	洗髪	中原
10	清潔の援助⑦	口腔ケア	中原
11	排泄の援助①	排泄とは 排泄の意義 排泄の援助	永尾
12	排泄の援助②	尿器・便器のあてかた	永尾
13	排泄の援助③	陰部洗浄・おむつ交換	永尾
14	排泄の援助④	陰部洗浄・おむつ交換 全身清拭一連の援助	永尾
15	排泄の援助⑤	浣腸 その他の援助	永尾
16	終講時試験	筆記試験	中原/永尾

評価	実技試験30% 筆記試験70%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術II
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	ヘルスアセスメント	講義 演習	1 (30)	1年 後期	中原輝子	看護師

授 業 概 要

看護の対象となる人の健康状態の把握や看護援助の評価を行なうために必要なヘルスアセスメントについて学ぶ。専門基礎分野の「人体の構造と機能」で学んだ既習知識をもとに情報の意味を理解し判断能力を養う。本科目で学んだ内容は、専門分野の基礎看護学を初めとする全領域に繋がる。

到 達 目 標

バイタルサインの測定ができる。  
フィジカルアセスメントの目的・方法を理解することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む  
事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	ヘルスアセスメントの意義と目的	ヘルスアセスメントの意義・目的・方法 健康歴聴取 全体の概観	中原
2	フィジカルアセスメントに必要な技術①	バイタルサインの定義と要素 呼吸・循環・体温のしくみ グループワーク	中原
3	フィジカルアセスメントに必要な技術②	体温、脈拍、呼吸の測定 プレゼンテーション	中原
4	フィジカルアセスメントに必要な技術③	血圧測定	中原
5	フィジカルアセスメントに必要な技術④	血圧測定	中原
6	フィジカルアセスメントに必要な技術⑤	血圧測定	中原
7	体温・循環調節の援助	対象者のヘルスアセスメント 体温表の意義と書き方 援助技術：褥瘡法	中原
8	系統別フィジカルアセスメント①	系統別 フィジカルアセスメント：胸部	中原
9	系統別フィジカルアセスメント②	対象者のヘルスアセスメント	中原
10	呼吸の管理に必要な看護技術	援助技術：吸引、酸素吸入	中原
11	系統別フィジカルアセスメント③	系統別 フィジカルアセスメント：腹部	中原
12	系統別フィジカルアセスメント④	対象者のヘルスアセスメント	中原
13	系統別フィジカルアセスメント⑤	シミュレーション演習 ①	中原
14	系統別フィジカルアセスメント⑥	シミュレーション演習 ②	中原
15	系統別フィジカルアセスメント⑦	対象者のヘルスアセスメント まとめ	中原
16	終講時試験	筆記試験	中原

評価	実技試験30% 筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	診療に伴う看護技術1	講義 演習	1 (30)	1年 後期	永尾 早苗	看護師

授 業 概 要

診療の補助に伴う援助技術として薬物療法・診察および検査時の援助に必要な知識・技術・態度を身につける学習内容である。薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を学ぶ。経口投与、口腔内投与、吸入、点眼、点鼻、経皮的投与、直腸内投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。さらに注射の基礎知識を理解する。「薬理学Ⅰ」で学んだ知識を活かし、「臨床看護総論」や「臨地実習」に繋がる。

到 達 目 標

診療に伴う看護技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	診察・検査・処置における技術	臨床検査の役割 臨床検査の流れと看護師の役割	永尾
2	主な臨床検査①	一般検査と血液学的検査 【検査技師】	椿
3	主な臨床検査②	生体検査（心電図 肺活量検査 眼底検査 聴力検査 超音波検査）【検査技師】	椿
4	画像診断①	x線診断 CT MRI 放射線による障害と防護 【放射線技師】	萩田
5	画像診断②	x線診断 CT MRI 放射線による障害と防護 【放射線技師】	萩田
6	検査時の看護師の役割	検査時の看護師の役割についてGW（検査についてDVD）	永尾
7	検体検査・生体検査	尿検査（簡易検査・尿比重）、心電図モニタ、標準12誘導心電図（演習）	永尾
8	与薬の技術	薬物の基礎的知識（薬理学Ⅰの既習内容）振り返り 薬辞典の使い方	永尾
9	与薬の技術	援助法 援助の実際（演習）ダブルチェック、口腔内与薬、経皮的与薬	永尾
10	与薬の技術	援助法 援助の実際（演習）直腸内与薬、点眼、吸入	永尾
11	注射法①	注射の基礎知識（概要 種類 実施上の責任）、アンプル・バイアル（演習）	永尾
12	注射法②	真空管採血（駆血帯、採血の概要）	永尾
13	注射法③	真空管採血（演習）	永尾
14	注射法④	点滴管理（滴下・三方活栓・点滴刺入部の観察）	永尾
15	振り返り	振り返り	永尾
16	終講時試験	筆記試験	永尾

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床検査
参考図書	今日の治療薬
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	診療に伴う看護技術2	講義 演習	1 (15)	2年 後期	山村 ひと美	看護師

授 業 概 要

診療の補助に伴う援助技術として皮下・筋肉・静脈内注射・輸血の援助に必要な知識・技術・態度を身につける学習内容である。「人体の発生と構造・血液の成分と機能」や「共通看護技術1」の無菌操作の知識をもとに、「臨地実習」に活かす。

到 達 目 標

診療に伴う注射・輸血に関する知識・看護技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
				○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	皮下注射 筋肉注射①	皮下注射 筋肉内注射（事例患者をもとに演習）	
2	皮下注射 筋肉注射②	皮下注射 筋肉内注射（事例患者をもとに演習）	
3	静脈内注射①	点滴の基礎知識	
4	静脈内注射②	静脈路確保 点滴の管理 側管からの薬液投与（事例患者をもとに演習）	
5	静脈内注射③	翼状針による静脈内注射（事例患者をもとに演習）※HRも活用	
6	静脈内注射④	シリンジポンプと輸液ポンプ	
7	輸血	輸血について	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	看護過程	講義 演習	1 (30)	1年 後期	古賀 恭子	看護師

授 業 概 要

「成人看護学概論」や「ヘルスアセスメント」知識を活かし、看護の対象を統合的・全人的に捉え、看護援助を意図的にかつ計画的に実践するために看護過程展開の方法を学ぶ。本授業で学んだ学習内容を「臨床看護総論」や専門領域の臨地実習で活用する。

到 達 目 標

看護過程の展開方法が理解できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○	○	○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	看護過程とは	看護過程とは 問題解決過程 クリティカルシンキング	
2	看護過程とは	看護過程の各段階 情報収集と情報の分析	
3	看護過程の展開①	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（健康認識）	
4	看護過程の展開②	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（栄養・代謝）	
5	看護過程の展開③	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（排泄）	
6	看護過程の展開④	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（活動・運動、睡眠）	
7	看護過程の展開⑤	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（認知・自己知覚）	
8	看護過程の展開⑥	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（役割・性）	
9	看護過程の展開⑦	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（コーピングストレス・価値）	
10	看護過程の展開⑧	看護問題の明確化（看護診断）	
11	看護過程の展開⑨	看護問題の明確化（看護診断）	
12	看護過程の展開⑩	看護問題の明確化（看護診断）	
13	看護計画①	看護計画の立案	
14	看護計画②	看護計画の立案	
15	看護記録と報告	看護計画の評価 看護記録の機能と法的意義	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験80% 課題提出20%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I
参考図書	メジカルフレンド社 患者さんの情報収集ガイドブック 医学書院 看護診断ハンドブック第12版
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	臨床看護総論	講義	1 (15)	1年 後期	榊澤 秀美	看護師

授 業 概 要

既習の「ヘルスアセスメント」や「呼吸・循環の構造と機能」の知識を活かし、健康障害を持つ対象の理解に努め、事例（誤嚥性肺炎・心不全）に基づいて対象の健康状態を評価して、対象に応じた複数の日常生活の調整方法や診療に伴う看護技術を活用するために必要となる基本的な判断力・技術を習得する。この授業で学んだ学習内容を専門領域の臨地実習「基礎看護学実習Ⅱ」に活かす。

到 達 目 標

事例に基づき、患者の健康状態を評価して患者に応じた日常生活の調整方法や診療に伴う看護技術を活用する基礎を習得する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	主要症状のある患者の看護①	誤嚥性肺炎の症状の観察とアセスメント	
2	主要症状のある患者の看護②	誤嚥性肺炎の援助の実際 GW	
3	主要症状のある患者の看護③	誤嚥性肺炎の援助の実際 発表	
4	主要症状のある患者の看護④	心不全の症状の観察とアセスメント	
5	主要症状のある患者の看護⑤	心不全の援助の実際 GW	
6	主要症状のある患者の看護⑥	心不全の援助の実際 発表	
7	まとめ	アセスメントと援助の振り返り	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験・技能・態度を総合して評価する
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論、呼吸器、循環器
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	地域看護概論	講義 演習	1 (30)	1年 前期	山口真喜子	看護師

授 業 概 要

看護の対象である人間は、周囲の環境から影響を受け、環境との相互作用のなかで暮らしている。この“暮らし”は年齢や発達課題や家族構成などにより十人十色である。また、この暮らしに影響を及ぼす要因として、制度や地域特性がある。看護の土台である地域で暮らす人々の看護を学ぶために人々の暮らしの多様性や暮らしに影響を与える武雄市の地域特性を学ぶ内容とした。「地域実習Ⅰ」や「地域実習Ⅱ」、「地域看護活動の展開」に繋がる学習内容である。

到 達 目 標

暮らしの拠点となる武雄市の歴史や地域の特徴が理解できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○		○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	暮らすということ	子どもを生き育てる、働く、老いとともに生きる	
2	武雄市やその周辺地域の特徴・歴史や文化①	武雄市の歴史や文化 GW	
3	武雄市やその周辺地域の特徴・歴史や文化②	産業、家族構成 武雄市の歴史や文化 GW	
4	地域の生活環境①	小児にとっての武雄市	
5	地域の生活環境②	青年期にとっての武雄市	
6	地域の生活環境③	高齢者にとっての武雄市	
7	地域の生活環境④	自然災害と防災	
8	看護の場に応じた活動と専門分化①	医療施設における看護活動	
9	看護の場に応じた活動と専門分化②	保健福祉施設における看護活動	
10	地域の生活環境⑤	フィールドワーク	
11	地域の生活環境⑥	フィールドワーク	
12	地域の生活環境⑦	フィールドワーク	
13	地域の生活環境⑧	まとめ GW	
14	地域の生活環境⑨	発表	
15	地域の生活環境⑩	発表	
16	終講時試験	レポート	

評価	レポート100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	地域看護活動の展開	講義 演習	1 (15)	2年 前期	納富裕子	助産師

授 業 概 要

「地域看護概論」の既習の知識を武雄市の健康課題や、地域で行なわれている看護活動について理解する。また、何らかの支援や援助を受けながら地域で生活する人を支える看護師の役割や地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支援する方法について学ぶ内容とした。本授業で学んだことをもとに、「地域看護実習Ⅱ」で実践について学習する。

到 達 目 標

地域で支援や援助を受けながら生活する人の看護活動や看護師の役割を理解する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○			○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	地域の健康課題①	武雄市の健康課題についてグループワーク	
2	地域の健康課題②	地域や地域で暮らす人々のアセスメントグループワーク発表	
3	地域の看護活動の場・活動内容①	訪問看護ステーション・障がい者支援施設・特別養護老人ホームなどの各施設の概要・看護活動についてグループで調べる	
4	地域の看護活動の場・活動内容②	各施設の概要・看護活動について発表	
5	地域で健康障害をもつ対象が生活するための看護活動①	健康障害をもち地域で生活する対象理解・地域で利用できる保健・医療サービス・看護師の役割・家族の支援について事例をもとにグループワーク	
6	地域で健康障害をもつ対象が生活するための看護活動②	健康障害をもち地域で生活する対象理解・地域で利用できる保健・医療サービス・看護師の役割・家族の支援について事例をもとにグループワーク	
7	地域で健康障害をもつ対象が生活するための看護活動③	発表会・まとめ	
8	終講時試験	まとめ/レポート	

評価	レポート80% 課題20%
テキスト	地域在宅看護の基盤【1】，医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	家族看護論	講義 演習	1 (15)	1年 後期	太田 裕美子/堀田 由	看護師

授 業 概 要

「家族社会学」で学んだ知識を活かし、家族の健康問題について学び、家族看護実践に必要な家族看護の諸理論をもとに、家族支援方法について学ぶ。本授業で学んだ内容を「在宅看護概論」「在宅看護援助論」に活かす。

到 達 目 標

家族看護の対象を理解し、理論と介入方法を知ることができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	家族看護とは①	家族看護の特徴と理念 家族看護の実践	太田
2	家族看護の対象理解①	家族看護からみた家族の捉え方	太田
3	家族看護展開の方法①	家族に変化をもたらすための介入	太田
4	家族看護展開の方法①	家族看護学の実践（事例検討）	太田
5	家族看護展開の方法②	家族看護学の実践（発表）	太田
6	家族看護を支える理論と介入法①	家族に変化をもたらすための実際の介入法①	堀田
7	家族看護を支える理論と介入法②	家族に変化をもたらすための実際の介入法②	堀田
8	終講時試験	まとめ・筆記試験（45分）	

評価	課題30% 筆記試験70%
テキスト	系統看護学講座 家族看護学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	在宅看護概論	講義	1 (15)	2年 前期	太田 裕美子	看護師

授 業 概 要

「在宅看護概論」で在宅看護が求められてきた社会背景を学び、在宅ケアシステムの中での看護の役割を考える。また、在宅ケアを支える制度と社会資源を学び、在宅看護を実施する際の倫理、基本理念を学ぶ。さらに、現代の社会情勢をふまえ、在宅看護の現状、将来の展望と課題についても学習する「在宅看護援助論」「在宅看護演習」に活かす。

到 達 目 標

在宅看護論の概念と歴史、役割や法制度、倫理が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○		○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	在宅看護の目的と特徴	地域看護における看護師の役割	
2	地域の理解	地域の多様性 地域包括ケアシステム	
3	地域・在宅看護の対象	ライフステージによる多様性、家族の理解	
4	地域における暮らしを支える看護	看護師に求められるもの	
5	実践の場との連携	在宅実践の場、他職種連携	
6	地域・在宅看護に関わる制度①	介護保険制度、医療保険制度	
7	地域・在宅看護に関わる制度②	訪問看護制度、障害者・難病に関する法制度、権利保障	
8	終講時試験	まとめ・筆記試験(45分)	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	在宅看護援助論	講義 演習	1 (30)	2年 後期	山村ひと美	看護師

授 業 概 要

「在宅看護概論」で学んだ知識を活かし、実際の療養生活における基礎技術を学ぶ。まず、基本的な生活行動と訪問看護の実際や在宅で医療処置を必要とする療養者のケアを学ぶ。本授業で学んだ内容は、「在宅看護演習」に活かす。

到 達 目 標

在宅看護の生活援助技術が理解できる。さまざまな状況にある療養者の援助が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	在宅での看護展開①	在宅看護の活動を支えるコミュニケーション	
2	在宅での看護展開②	活動の制限のアセスメントと生活行為への支援	
3	在宅で求められる看護技術①	呼吸、食生活・嚥下に関する在宅看護技術（事例をもとにGW）	
4	在宅で求められる看護技術②	排泄に関する在宅看護技術（事例をもとにGW）	
5	在宅で求められる看護技術③	移動・移乗に関する在宅看護技術（事例をもとにGW）	
6	在宅で求められる看護技術④	清潔に関する在宅看護技術（事例をもとにGW）	
7	在宅で求められる看護技術⑤	発表会	
8	在宅で求められる看護技術⑥	認知機能のアセスメント法と援助技術	
9	在宅で求められる看護技術⑦	コミュニケーションの支援、在宅におけるエンドオブライフケア	
10	医療管理を要する療養者の看護①	褥瘡の予防とケア 尿道留置カテーテルの看護	
11	医療管理を要する療養者の看護②	ストーマをもつ療養者の看護	
12	医療管理を要する療養者の看護③	在宅中心静脈栄養法をされている療養者の看護	
13	医療管理を要する療養者の看護④	非侵襲的陽圧換気療法 在宅酸素療法（HOT）	
14	在宅看護における安全性の確保	感染防止・医療事故防止	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	在宅看護演習	講義 演習	1 (30)	2年 後期	山村ひと美	看護師

授 業 概 要

「在宅看護概論」「在宅看護援助論」で学んだ知識を活かす。看護過程展開では、事例を通してこれまで学んだ知識を統合し、看護活動の実際・流れを在宅看護介入期別に学び、在宅看護を総合的に理解できるようにする。また、訪問看護の実際を学ぶ過程で初回訪問の大切さ、訪問マナー、責任の重さ、危機管理についても学ぶ内容とした。本授業で学んだ内容は、「在宅看護論実習」に活かす。

到 達 目 標

在宅で生活する療養者の健康問題と生活上の問題を理解し、実践の場において在宅看護の役割を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	在宅看護の看護過程	在宅看護での看護過程の特徴	
2	在宅での看護過程展開の実際①	訪問開始前の情報収集 在宅看護の視点に着目したアセスメント	
3	在宅での看護過程展開の実際②	看護目標の決定と他職種との共有 訪問看護の実施・評価・報告	
4	在宅での看護の実際①	胃瘻・膀胱留置カテーテルを挿入して在宅療養 をする人の看護（演習）	
5	在宅での看護の実際②	胃瘻・膀胱留置カテーテルを挿入して在宅療養 をする人の看護GW（演習）	
6	在宅看護介入期別の特徴①	訪問看護活動における時期の特徴	
7	在宅看護介入期別の特徴②	在宅療養導入期（退院前）特徴とアセスメント 介護力のアセスメント	
8	在宅看護介入期別の特徴③	在宅療養開始初期の特徴とアセスメント	
9	在宅看護介入期別の特徴④	初回訪問 訪問時のマナー	
10	在宅看護介入期別の特徴⑤	生活の場での療養者のADL 残存機能の評価 介護力の評価	
11	在宅看護過程の展開①	慢性閉塞性肺疾患の療養者・難病の療養者の看護過程の展開 GW	
12	在宅看護過程の展開②	慢性閉塞性肺疾患の療養者・難病の療養者の看護過程の展開 GW	
13	在宅看護過程の展開③	慢性閉塞性肺疾患の療養者・難病の療養者の看護過程の展開 GW	
14	在宅看護過程の展開④	発表会	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	成人看護学概論	講義 演習	1 (30)	1年 後期	古賀 恭子	看護師

授 業 概 要

成長発達論で学んだ成人期の特徴などを踏まえ、成人期の特徴を理解し、“学習行動”“エンパワメントモデル”“セルフケア”など成人期にある対象の問題を理解するのに有用な概念を学ぶ。また、成人期の特徴を身体的、精神的、社会的などの側面から捉える必要性を理解し2年次に学習する成人各期の看護に活かす。

到 達 目 標

ライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・精神的・社会的などの側面から統合的にとらえる必要性を理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○			○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	成人と生活①	対象者の理解 大人になること 大人であること 対象者の生活 働いて生活を営むこと 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 GW	
2	成人と生活②	対象者の理解 大人になること 大人であること 対象者の生活 働いて生活を営むこと 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 GW	
3	成人と生活③	上記内容について発表 まとめ	
4	生活と健康①	成人を取り巻く環境と生活からみた健康 生活と健康をまもりはぐくむシステム GW	
5	生活と健康②	成人を取り巻く環境と生活からみた健康 生活と健康をまもりはぐくむシステム GW	
6	生活と健康③	上記内容について発表 まとめ	
7	成人への看護アプローチの基本①	生活と健康をまもりはぐくむシステム生活のなかで健康行動のとらえ方 GW 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 チームアプローチ ヘルスプロモーションと看護	
8	成人への看護アプローチの基本②	生活と健康をまもりはぐくむシステム生活のなかで健康行動のとらえ方 GW 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 チームアプローチ ヘルスプロモーションと看護	
9	成人への看護アプローチの基本③	上記内容について発表 まとめ	
10	健康をおびやかす要因と看護	健康バランスの構成要素 生活行動がもたらす健康行動とその予防 GW	
11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	生命の危機状況 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護 救急医療を必要とする人々GW	
12	慢性病との共存を支える看護	慢性病患者の理解 慢性病との共存を支える看護の実践 エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント 自己効力感 GW	
13	障害がある人の生活とリハビリテーション	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護 GW	
14	人生の最期のときを支える看護	人生の最期のときにおける緩和ケア GW	
15	急性期・慢性期・回復期・終末期の看護	上記内容について発表 まとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験80% グループワーク20%
テキスト	系統看護学講座 成人看護学概論
参考図書	国民衛生の動向
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	成人看護学慢性期援助論	講義 演習	1 (30)	2年 前期	中川 みどり	看護師

授 業 概 要

成人看護学概論で学んだ、成人期の身体的、精神的、社会的側面などの特徴を踏まえ、セルフマネジメントや生活の再構築が必要な成人とその家族の特徴を理解し、患者の力を引き出すための援助や教育方法を学ぶ。また、本科目で学んだ内容を成人看護学慢性期演習や3年次の専門領域別実習に活かす。

到 達 目 標

セルフマネジメントや生活の再構築が必要な成人とその家族の特徴を理解し、患者の力を引き出すための援助や教育方法を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	慢性病の人を支える看護	慢性病患者の理解 慢性病との共存を支える看護の実践 エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント 自己効力感	中川先生
2	学習者である患者への看護技術	エンパワメントーエデュケーション セルフマネジメントを推進する看護技術 セルフマネジメント教室 コンプライアンスを高めるための知識	中川先生
3	学習者である患者への看護技術	生命維持レベル・社会生活行動レベルのセルフケア	中川先生
4	学習者である患者への看護技術	社会生活レベルのセルフケア、セルフケア再獲得を支援する人的システム	中川先生
5	生活の再構築を必要とする成人の看護①	障がい者の定義 障がい者を支えるおもな制度 疾病・障がい・生活機能の分類 国際疾病分類 (ICD) 国際障がい分類 (ICIDH) 国際生活機能分類 (ICF)	中川先生
6	生活の再構築を必要とする成人の看護②	生活の再構築を必要とする人への看護の対象 障がい者に対する態度 障がい者の体験 家族の体験	中川先生
7	生活の再構築を必要とする成人の看護③	リハビリテーションの看護を必要とする人の特徴	中川先生
8	生活の再構築を必要とする成人の看護④	生活の再構築を必要とする人への看護の対象 障がい者に対する態度 障がい者の体験 家族の体験	中川先生
9	生活の再構築を必要とする成人の看護⑤	運動機能障害をもつ人のリハビリテーション看護	中川先生
10	生活の再構築を必要とする成人の看護⑥	脳血管障害をもつ人のリハビリテーション看護、意識障害、運動障害	中川先生
11	生活基本行動レベルのセルフケアの再構築	脳血管障害をもつ人の構音障害、摂食嚥下障害、失語	中川先生
12	ストマ造設患者の社会復帰にむけたセルフケア	人工肛門造設患者の紙上事例を用いてアセスメント	中川先生
13	ストマ造設患者の社会復帰にむけたセルフケア	人工肛門造設患者の紙上事例を用いてアセスメント	中川先生
14	糖尿病とともに生きる患者のセルフマネジメント支援①	糖尿病に関する知識を深める 自己血糖測定 症状と看護 援助者としての役割の明確化 生活者としてのクライアント 共同目標の設定 アクションプラン設定の援助	中川先生
15	糖尿病とともに生きる患者のセルフマネジメント支援②	糖尿病に関する知識を深める 自己血糖測定 症状と看護 援助者としての役割の明確化 生活者としてのクライアント 共同目標の設定 アクションプラン設定の援助	中川先生
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 内分泌・代謝 消化器 別冊リハビリテーション看護
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	成人看護学慢性期演習	講義 演習	1 (30)	2年 後期	古賀恭子	看護師

授 業 概 要

成人看護学概論で学んだ、成人期の身体的、精神的、社会的側面などの特徴を踏まえ、成人看護学慢性期援助論で学んだセルフマネジメントや生活の再構築が必要な成人とその家族の特徴や患者の力を引き出すための援助や教育方法を踏まえ、紙上事例や模擬患者に対し、演習を行う。そして、今回学んだ内容を3年次の専門領域別実習に活かす。

到 達 目 標

セルフマネジメントや生活の再構築が必要な成人の特有な健康問題を持つ事例に対する看護過程の展開方法や必要な看護技術を

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	がんとともに生きる患者のセルフマネジメント支援 GW	
2	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	化学療法における身体変化の徴候や症状、汎白血球減少に対する対処法 GW	
3	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	膠原病（クローン病・SLE）とともに生きる患者のセルフマネジメント支援 GW	
4	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	症状・薬物療法による副作用に対する看護、退院後の生活支援 GW	
5	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	上記の内容の発表・まとめ	
6	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	脊髄損傷の動向 脊髄損傷のリハビリテーションプログラム GW	
7	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	障害とリハビリテーション看護 合併症の予防と管理 GW	
8	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	関節リウマチ患者のリハビリテーションプログラム リハビリテーション看護 GW	
9	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	合併症の予防と管理 GW	
10	様々な疾患と共に生きる患者のセルフマネジメント支	上記の内容の発表・まとめ	
11	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	腎不全 保存期 透析導入期 透析維持期の看護過程の展開 GW	
12	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	腎不全 保存期 透析導入期 透析維持期の看護過程の展開 GW	
13	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	腎不全 保存期 透析導入期 透析維持期の看護過程の展開 GW	
14	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	演習（生活指導の実際）	
15	腎不全とともに生きる患者のセルフマネジメント支援	演習（生活指導の実際）	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 成人看護学概論 内分泌・代謝 消化器 別冊リハビリテーション看護
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	成人看護学急性期援助論	講義	1 (30)	2年 前期	井手宏直 竹本小春	看護師 看護師

授 業 概 要

成人看護学で学んだ、成人期にある人々の身体的・社会的・精神的特徴を踏まえ、急激に生命を脅かす重度の侵襲にさいなまれた人々に対し、現在起きている生体反応を緩和し、現在ある機能を最大限に高めるための援助方法について学ぶ。まずは、救急医療について学び、ICUなどの集中治療を行う場で遭遇することが多い処置や治療について学ぶ。また、一般病棟でも遭遇する、周手術期看護についても学ぶ。そして、3年次の専門領域別実習に活かす。

到 達 目 標

手術療法及び集中治療を受ける患者や家族の特徴を理解し、周手術期・急性期看護に必要な看護が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	急性期にある人の特徴①	健康破綻による危機状況 侵襲刺激に対する生体反応 キャノンの闘争・逃走理論 セリエのストレス学説 侵襲のトライアングル	井手
2	急性期にある人の特徴②	生体侵襲と神経系・内分泌系の反応 手術侵襲と生体反応 ムーアの分類	井手
3	急性期にある人の特徴③	急性期の心理的反応と介入 フィンク危機理論 アギュララとメズイックのモデル	井手
4	救急医療を受ける患者の看護①	救急医療体制 救急患者の特徴 患者背景の特徴 発症様式と病態の特徴 心理的特徴 救急患者家族の特徴	井手
5	救急医療を受ける患者の看護②	救急看護の役割 初期情報の迅速な収集 救急医療の場のマネジメント 患者・家族への支援	井手
6	集中治療を受ける患者の看護①	生命が危機状況にある患者の特徴 治療環境 患者の身体的特徴 患者の心理・社会的特徴	井手
7	集中治療を受ける患者の看護②	集中治療における看護の実際 人工呼吸器装着中の患者の看護 IABP患者の看護	井手
8	集中治療を受ける患者の看護③	集中治療における看護の実際 体外式ペースメーカー装着中の患者の看護 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護	井手
9	周手術期における看護①	周手術過程に応じた看護	竹本
10	周手術期における看護②	術前の看護	竹本
11	周手術期における看護③	手術侵襲と生体反応	竹本
12	周手術期における看護④	麻酔の種類と副作用及び観察点 術中看護	竹本
13	周手術期における看護⑤	術直後の看護	竹本
14	周手術期における看護⑥	術後合併症とその予防	竹本
15	周手術期における看護⑦	術後合併症とその予防	竹本
16	終講時試験	筆記試験	竹本

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 臨床外科各論 救急看護学 クリティカル看護学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	成人看護学急性期演習	講義	1 (30)	2年 後期	山口真喜子 井手宏直	看護師

授 業 概 要

急激に生命を脅かす重度の侵襲にさらされた人々に対し、さまざま生体反応を緩和し現在ある機能を最大限に高める援助法や周手術期看護を成人看護学急性期援助論で学び、本科目では紙上事例を用いた看護過程の展開や模擬患者を用いた演習を行う。また、BLSやALSなど、救急処置についても演習を行い、3年次の専門領域別実習へ繋げる。

到 達 目 標

手術療法及び集中治療を受ける成人の特有な健康問題を持つ事例に対する看護過程の展開方法や必要な看護技術を修得することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	集中的な治療が必要な患者の看護①	急性心筋梗塞患者 骨盤骨折患者 急性膵炎患者の事例を用いてグループでアセスメントを行う	山口
2	集中的な治療が必要な患者の看護②	急性心筋梗塞患者 骨盤骨折患者 急性膵炎患者の事例を用いてグループでアセスメントを行う	山口
3	集中的な治療が必要な患者の看護③	急性心筋梗塞患者 骨盤骨折患者 急性膵炎患者の事例を用いてグループで計画立案	山口
4	集中的な治療が必要な患者の看護④	模擬患者での演習 (バイタルサイン測定 清潔ケア)	山口
5	集中的な治療が必要な患者の看護⑤	模擬患者での演習 (バイタルサイン測定 清潔ケア)	山口
6	消化器がんの周手術期にある患者の看護①	食道がん患者 肝臓がん患者の術前、術直後 術後(回復期)について各グループでアセスメント	山口
7	消化器がんの周手術期にある患者の看護②	食道がん患者 肝臓がん患者の術前、術直後 術後(回復期)について各グループでアセスメント	山口
8	消化器がんの周手術期にある患者の看護③	食道がん患者 肝臓がん患者の術前、術直後 術後(回復期)について各グループで計画立案	山口
9	消化器がんの周手術期にある患者の看護④	模擬患者での演習 (食道がん患者の術前訓練指導、術直後の観察 早期離床に向けた援助)	山口
10	消化器がんの周手術期にある患者の看護⑤	模擬患者での演習 (肝臓がん患者の術前訓練指導、術直後の観察 早期離床に向けた援助)	山口
11	消化器がんの周手術期にある患者の看護⑥	模擬患者での演習 (肝臓がん患者の術前訓練指導、術直後の観察 早期離床に向けた援助)	山口
12	救急処置法の実際②	BLS (演習)	井手
13	救急処置法の実際③	BLS (演習)	井手
14	救急処置法の実際④	ALS 小児の心肺蘇生法 (演習)	井手
15	救急処置法の実際⑤	救急患者の搬送 止血法 直接圧迫止血法 間接圧迫止血法 止血帯法 鼻出血の止血法 耳出血の止血法 (演習)	井手
	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験50% 各演習への取り組み20% レポート30%
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 臨床外科各論 救急看護学 クリティカル看護学
参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ循環器 消化器 運動器
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	成人看護学終末期援助論	講義	1 (30)	2年 後期	橋本優子/多久島圭子/正木晶子

授 業 概 要

成人看護学概論で学んだ成人期の特徴を踏まえ、人生の最期のときにある対象やその家族の特徴を理解し、人生の最期の時を支える看護の方法を学ぶ。

到 達 目 標

人生の最期のときにある対象やその家族の特徴を理解し、人生の最期の時を支える看護の方法を理解する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	○	○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	緩和ケアの歴史と発展	緩和ケアの歴史と発展 緩和ケアの理念 緩和ケアの展望	橋本
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ	緩和ケアにおけるチームアプローチの意義 チームアプローチにおいて求められる専門性	橋本
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション	コミュニケーションに関する患者と医療者の認識 難しい場面でのコミュニケーション	橋本
4	緩和ケアにおける倫理的課題	生命倫理と看護倫理 意思決定支援 緩和ケアをめぐる倫理的改題	橋本
5	全人的ケアの実践	身体ケア 心理的ケア 社会的ケア スピリチュアルケア	橋本
6	全人的ケアの実践	身体ケア 心理的ケア 社会的ケア スピリチュアルケア	橋本
7	緩和ケアにおける薬剤の活用とその副作用への対処方法①	痛みに対する薬剤の活用とその副作用対策 倦怠感に対する薬剤の活用とその副作用対策 精神症状に対する薬剤の活用とその副作用対策	多久島
8	緩和ケアにおける薬剤の活用とその副作用への対処方法②	痛みに対する薬剤の活用とその副作用対策 倦怠感に対する薬剤の活用とその副作用対策 精神症状に対する薬剤の活用とその副作用対策	多久島
9	緩和ケアにおける薬剤の活用とその副作用への対処方法③	痛みに対する薬剤の活用とその副作用対策 倦怠感に対する薬剤の活用とその副作用対策 精神症状に対する薬剤の活用とその副作用対策	多久島
10	臨死期のケア	臨死期における全人的苦痛の緩和 死亡前後のケア 急変時のケア	正木
11	家族へのケア	家族ケア・遺族ケアの基本的考え方 遺族ケアの実際 がん患者に対する心理的援助の方法	橋本
12	逝去時の看護①	エンゼルケア (演習)	正木
13	逝去時の看護②	エンゼルケア (演習)	正木
14	安楽な援助 (タクティールケア)	タクティールケア (演習)	協会
15	安楽な援助 (タクティールケア)	タクティールケア (演習)	協会
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護 緩和ケア
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	老年看護学概論	講義 演習	1 (30)	1年 後期	坂本 清	看護師

### 授 業 概 要

老年期の人々が加齢により種々の機能が低下し心身ともに衰えていく過程にあるという側面と、人間として成熟し人生の円熟期を迎え尊重される存在という側面を併せ持つ高齢者を理解する。さらにライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉え、高齢者を取り巻く社会の動向と保健・医療・福祉制度について学び、老年看護における機能と役割を学ぶ。「老年看護学援助論」や「高齢者の健康障害と看護」に繋がる科目である。

### 到 達 目 標

ライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えることができる。

### 事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：各単元の事前課題に取り組む

事後学習：学習内容の国家試験問題に取り組む。

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	老年期の特徴	ライフサイクルからみた老年期の特徴、人口学的指標から老年期の理解	坂本
2	加齢に伴う社会文化的特徴①	グローバルな観点からの高齢者問題(1)高齢化への国際的動向 (2)わが国の高齢問題	坂本
3	加齢に伴う社会文化的特徴②	高齢化が社会生活に及ぼす影響 (1)高齢者の暮らし (2)高齢社会と医療	坂本
4	加齢に伴う社会文化的特徴③	高齢化に伴う社会文化的影響、地域における高齢者の学習ニーズの変化	坂本
5	超高齢社会における社会保障の動き	自立支援システムの実現に向けて	坂本
6	老年看護の機能と役割	高齢者にとっての健康状態、健康段階と場に応じた看護の機能と役割	坂本
7	老年看護の対象	老年看護の原理 (1) 老年看護とは (2) 老年看護の根本原理	坂本
8	老年期にある人々の特徴①	老年期の発達と成熟 (1) 老年期における発達と成熟の意味 (2) 人格と尊厳	坂本
9	老年期にある人々の特徴②	高齢者の生活理解 (1) 加齢に伴う生活の変化 (2) 高齢者の健康的な生活	坂本
10	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴①	加齢に伴う変化の特徴 (1) 恒常性と健康をまもる4つの力の変化 (2) 疾病をめぐる特徴	坂本
11	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴②	加齢に伴う身体的・精神的特徴(1) 内臓機能の変化 (2) 運動・体力の変化	坂本
12	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴	老年疑似体験 (演習)	坂本
13	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴③	体験後グループワーク 発表	坂本
14	エンドオブライフケア	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア	坂本
15	エンドオブライフケア	事例から終末期について考える	坂本
16	終講時試験	筆記試験	坂本

評価	筆記試験100% (授業態度、レポート提出状況、グループワーク参加状況も含める)
テキスト	系統別看護学講座 老年看護学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	老年看護学援助論	講義・演習	1 (30)	2年 前期	坂本清/永尾早苗	看護師

### 授業概要

老年期の人々が加齢により種々の機能が低下し心身ともに衰えていく過程にある高齢者を理解する。また、主な症状とその看護、老年期の経過別看護、日常生活援助技術、治療処置別看護について学習する。高齢者が増える昨今、家族を含めた援助が必要なことが理解できるようにしている。「老年看護概論」で学んだ知識を活かし、「高齢者の健康障害と看護」や「老年看護学演習」に繋がる科目である。

### 到達目標

加齢による諸機能の変化にあわせた看護援助の方法が理解できる。

### 事前学習・事後学習

事前学習：各単元の事前課題に取り組む。

事後学習：学習内容の国家試験問題に取り組む。

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内容	担当教員
1	高齢者のヘルスアセスメントとケア	ヘルスアセスメントの枠組み・考え方、生活史のアセスメント	坂本
2	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（皮膚とその付属器）事例からGWマトメ	坂本
3	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（聴覚、その他感覚器）事例からGWマトメ	坂本
4	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（聴覚、その他感覚器）事例からGWマトメ	坂本
5	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（呼吸器系、消化器系）事例からGWマトメ	坂本
6	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（ホルモン分泌、泌尿生殖器系）事例からGWマトメ	坂本
7	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（ホルモン分泌、泌尿生殖器系）事例からGWマトメ	坂本
8	高齢者のヘルスアセスメントとケア	身体の高齢変化とアセスメント（運動系）事例からGWマトメ	坂本
9	高齢者の生活機能を整える看護	基本動作と環境のアセスメント 基本動作 日常生活活動の評価	永尾
10	高齢者の生活機能を整える看護	廃用症候群のアセスメント (事例をもとに)	永尾
11	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活（食、排泄、生活リズム、清潔）GW	永尾
12	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活（食、排泄）発表・マトメ	永尾
13	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活（生活リズム、清潔）発表・マトメ	永尾
14	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活（コミュニケーション）GW	永尾
15	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活（コミュニケーション）発表・マトメ、社会参加	永尾
16	終講時試験	筆記試験	坂本・永尾

評価	客観式試験100%（各担当教員50%）
テキスト	系統看護学講座 老年看護学、老年看護 病態・疾患論
参考図書	
留意事項	授業中の態度、GWへの参加状況、レポート提出状況も評価に含まれる

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	高齢者の健康障害と看護	講義・演習	1 (30)	2年 前期	片淵知子/坂本清	看護師

### 授 業 概 要

加齢による身体諸機能の低下から生じた健康障害をもつ高齢者への看護を学べる内容として、身体可動性に障害をもつ高齢者の看護とした。ここでは疾病が治癒することを目的とするのではなく、健康障害をもつが生活していくことに視点を当てた看護を学ぶことをねらいとしている。「老年看護学概論」や「老年看護学援助論」で学んだ知識を活かし、「老年看護学演習」や「老年看護学実習」に繋がる科目である。

### 到 達 目 標

高齢者に特有な疾患の特徴を知り残存機能の維持・生活の質に視点をあてた看護の方法が理解できる。

### 事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：各単元の事前課題に取り組む。

事後学習：学習内容の国家試験問題に取り組む。

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（脳血管障害患者の事例）	片淵
2	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（心不全患者の事例）	片淵
3	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（パーキンソン患者の事例）	片淵
4	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（インフルエンザ患者の事例）	片淵
5	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（肺炎患者の事例）	片淵
6	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（骨折患者の事例）	片淵
7	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（慢性心不全患者の事例）	片淵
8	健康逸脱からの回復を促す看護	身体疾患のある高齢者の看護（褥瘡患者の事例）	坂本
9	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ患者の看護）	坂本
10	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（せん妄患者の看護）	坂本
11	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（認知症患者の看護）	坂本
12	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（アルツハイマー型その他認知症患者の看護）	坂本
13	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（バリデーション療法について）	坂本
14	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護（ユマニチュード看護）	坂本
15	治療を必要とする高齢者の看護	エンドオブライフケア：事例から考える	坂本
16	終講時試験	筆記試験	片淵・坂本
評価	客観式試験100%(授業態度、レポート等の提出状況も含む)		
テキスト	系統看護学講座 老年看護学、老年看護 病態・疾患論		
参考図書			
留意事項			

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	老年看護学演習	講義	1 (15)	2年 前期	坂本 清	看護師

授 業 概 要

身体機能低下と認知機能障害をもつ高齢者が地域で安心して生活できるよう家族を含めた支援を学ぶ。また、既習の知識を生かし、高齢者の心身の状況や家族に合わせた社会資源のサービスの提供や看護師の役割を理解していく。「高齢者の健康障害と看護」で学んだ知識を活かし「老年看護学実習」に繋がる科目である。

到 達 目 標

健康障害をもつ高齢者が地域で暮らすために家族を含めた支援と社会資源の活用を理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	介護予防とヘルスプロモーション	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルの治療と予防 (講義)	坂本
2	認知症をもつ高齢者の看護	事例展開のオリエンテーション	坂本
3	脳血管障害・認知症をもつ高齢者の退院支援①	事例をもとに病態生理・退院に向けての社会資源を調べる(グループワーク)	坂本
4	脳血管障害・認知症をもつ高齢者の退院支援②	事例をもとに退院に向けての社会資源の活用と家族支援の方法を考える(グループワーク)	坂本
5	脳血管障害・認知症をもつ高齢者の退院支援③	事例をもとに退院に向けての社会資源の活用と家族支援の方法を考える(グループワーク)	坂本
6	脳血管障害・認知症をもつ高齢者の退院支援④	事例をもとに退院に向け、介護保険施設・地域密着型サービスとの連携、看護師の役割を考える(グループワーク)	坂本
7	脳血管障害・認知症をもつ高齢者の退院支援⑤	グループ発表 ディスカッション	坂本
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	坂本

評価	筆記試験(授業態度、レポートの提出状況も含む)
テキスト	系統看護学講座 老年看護学、老年看護 病態・疾患論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	小児看護学概論	講義	1 (15)	1年 後期	工藤広大朗	看護師

授 業 概 要

小児の成長・発達段階と各期の特徴、及び家族の役割や小児を取り巻く社会の動向と保健医療福祉教育制度について学び、小児看護の機能と役割を理解する。

到 達 目 標

小児の特徴をふまえ、小児看護の理念と意義を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象、小児看護の変遷、子どもの権利条約、児童憲章、児童福祉法	
2	小児の成長発達	成長・発達（一般的原則）（身体的機能、知的機能、情緒・社会性） （身体的機能、知的機能、情緒・社会性）	
3	小児各期の特徴と看護（新生児期、乳児期）	新生児期・乳児期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
4	小児各期の特徴と看護（幼児期）	幼児期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
5	小児各期の特徴と看護（学童期、思春期）	学童期・思春期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
6	小児の家族の特徴、家族を取り巻く社会①	現代社会の家族構成、子どもを取り巻く社会	
7	小児の家族の特徴、家族を取り巻く社会②	児童虐待	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論・小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	小児看護学援助論	講義・演習	1 (30)	2年 前期	工藤広大朗	看護師

授 業 概 要

小児期の基本的特性をふまえ、症状や検査・処置時の看護、小児看護に特有な看護技術を習得する。

到 達 目 標

症状や検査・処置時の看護が理解できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○	○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	症状を示す小児看護①	一般状態（不機嫌、啼泣）、痛み、呼吸困難、発熱、脱水、痙攣の症状を示す子どもの看護	
2	症状を示す小児看護②	一般状態（不機嫌、啼泣）、痛み、呼吸困難、発熱、脱水、痙攣の症状を示す子どもの看護	
3	症状を示す小児看護③	一般状態（不機嫌、啼泣）、痛み、呼吸困難、発熱、脱水、痙攣の症状を示す子どもの看護	
4	症状を示す小児看護④	一般状態（不機嫌、啼泣）、痛み、呼吸困難、発熱、脱水、痙攣の症状を示す子どもの看護	
5	症状を示す小児看護⑤	一般状態（不機嫌、啼泣）、痛み、呼吸困難、発熱、脱水、痙攣の症状を示す子どもの看護	
6	外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護①	コミュニケーション、安全を守る技術	
7	外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護②	プレパレーション	
8	外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護③	1～7回目のまとめ、9回目以降のオリエンテーション	
9	症状を示す小児看護	事例を元にシミュレーション（バイタルサイン測定）	
10	症状を示す小児看護	事例を元にシミュレーション（バイタルサイン測定）	
11	検査・処置を受ける小児の看護①	採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、吸引、経管栄養法、末梢輸液固定、与薬の演習準備	
12	検査・処置を受ける小児の看護②	採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、吸引、経管栄養法、末梢輸液固定、与薬の演習	
13	検査・処置を受ける小児の看護③	採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、吸引、経管栄養法、末梢輸液固定、与薬の演習	
14	検査・処置を受ける小児の看護④	採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、吸引、経管栄養法、末梢輸液固定、与薬の演習	
15	検査・処置を受ける小児の看護⑤	採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、吸引、経管栄養法、末梢輸液固定、与薬の演習	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論・小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	小児の健康障害と看護	講義・演習	1 (30)	2年 後期	井田 裕子	助産師

授 業 概 要

小児における特有な代表疾患と症状及び看護について学ぶ

到 達 目 標

小児期における疾患とその看護について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	染色体異常と先天異常の主な疾患と看護	常染色体異常 クラインフェルター症候群 ターナー症候群 ダウン症候群	
2	代謝性疾患と看護	新生児マススクリーニング 先天代謝異常症 代謝性疾患(糖尿病など)	
3	免疫疾患と看護	免疫不全 アレルギー性疾患 膠原病	
4	感染症疾患と看護①	ウイルス感染症 細菌感染症	
5	感染症疾患と看護②	リケッチア感染症 スピロヘータ感染症 原虫感染症 真菌感染症 寄生虫感染症	
6	呼吸器疾患と看護	先天性喘鳴 上気道の炎症 気管支・肺・胸膜疾患	
7	循環器疾患と看護	先天性心疾患 後天性心疾患	
8	消化器疾患と看護①	口腔疾患 頸部嚢胞・ろう孔 横隔膜の疾患 急性乳幼児下痢症、急性胃腸炎	
9	消化器疾患と看護②	食道の疾患 胃・十二指腸潰瘍 腸の疾患 腹膜・腹壁の疾患 肝臓・胆道の疾患 膵臓疾患	
10	血液・造血器疾患と看護	貧血 出血性疾患 顆粒球減少症	
11	悪性新生物と看護	白血病 脳腫瘍 脳腫瘍 骨の腫瘍	
12	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	泌尿・生殖器の奇形 腎糸球体疾患 腎尿細系疾患 尿路の疾患 生殖器の感染症	
13	神経疾患と看護	けいれん性疾患 脳性麻痺 中枢神経の血管性疾患 神経皮膚症候群 急性神経疾患 筋疾患	
14	応急時の看護	誤飲・誤嚥 溺水 熱傷 熱中症	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	終講時試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論・小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	小児看護学演習	講義・演習	1 (30)	2年 後期	工藤広大朗	看護師

授 業 概 要

健康障害の病期別の小児と家族の事例等を通して、それぞれの状況に必要な看護を実践する能力を身につける。

到 達 目 標

疾病の経過における小児と家族の看護について理解できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	小児における疾病の経過と看護（慢性期）①	事例を通して 慢性期の特徴 小児と家族の看護	
2	小児における疾病の経過と看護（慢性期）①	事例を通して 慢性期の特徴 小児と家族の看護	
3	小児における疾病の経過と看護（急性期）①	事例を通して 急性期の特徴 小児と家族の看護	
4	小児における疾病の経過と看護（急性期）②	事例を通して 急性期の特徴 小児と家族の看護	
5	小児における疾病の経過と看護（周手術期）①	事例を通して 周手術期の特徴 小児と家族の看護	
6	小児における疾病の経過と看護（周手術期）②	事例を通して 周手術期の特徴 小児と家族の看護	
7	小児における疾病の経過と看護（終末期）①	事例を通して 終末期の特徴 小児と家族の看護	
8	小児における疾病の経過と看護（終末期）②	事例を通して 終末期の特徴 小児と家族の看護	
9	健康障害をもつ小児の生活と看護①	生活制限のある小児と家族の看護 隔離中の小児と看護 活動制限のある小児と家族の看護	
10	健康障害をもつ小児の生活と看護②	医療的ケアが必要な小児と家族の看護 在宅療法を行う小児と家族の看護	
11	健康障害をもつ小児の生活と看護③	障害のある小児と家族の看護 障害のある小児と家族の特徴 障害のある小児と家族の社会的支援	
12	事例による看護過程の展開	脳性麻痺の子どもと家族の事例展開	
13	事例による看護過程の展開	脳性麻痺の子どもと家族の事例展開	
14	事例による看護過程の展開	脳性麻痺の子どもと家族の事例展開	
15	事例による看護過程の展開	脳性麻痺の子どもと家族の事例展開	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論・小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	母性看護学概論	講義	1 (15)	2年 前期	納富裕子	助産師

授 業 概 要

母性看護を取り巻く諸状況（統計・法律を含む）をふまえ、母性の概念及び母性看護の意義を理解する。母性看護の対象である、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防についての基本的な知識と看護について学ぶ。女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、その特徴に合わせた看護を学べる内容とする。また、生命の誕生を学ぶ分野であり、自分の命や親、家族への感謝の気持ちを考える機会とし、自らの父性観・母性観を深めることができる内容とする。

到 達 目 標

母性の概念及び母性看護の意義を理解する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
対応DP	○	○	○			○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	母性看護との概念	母性とは 母性看護の基盤となる概念	
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護に関する統計	
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護に関する法律	
4	母性看護の対象理解	情勢のライフサイクルにおける携帯機能の変化・女性ホルモンと性周期	
5	母性看護に必要な看護技術	母性看護における看護過程・情報収集・アセスメント・ウェルネス看護診断	
6	ライフステージ各期における特徴と看護	思春期・性成熟期・更年期・老年期の健康と看護	
7	リプラダクティブヘルス/ライツ	家族計画・性感染症・人工妊娠中絶・性暴力を受けた女性に関する看護	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1], 医学書院
参考図書	太田操, ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版 国民衛生の動向
留意事項	課題、グループワーク参加状況も評価する

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	妊娠期・分娩期の看護	講義 演習	1 (30)	2年 前期	酒井枝津子	助産師

授 業 概 要

妊娠期・分娩期の生理的変化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに、妊産婦および家族のニーズに基づく看護や保健指導について学ぶ。出生前からのリプロダクティブヘルスケアとして、不妊治療や出生前診断における医療の現状と社会の課題についても学ぶ。

到 達 目 標

妊娠・分娩期における生理的変化と看護が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	不妊治療と出生前診断	遺伝相談・出生前診断 不妊治療と看護	酒井先生
2	妊娠期の身体的・心理的・社会的特性	妊娠期の身体的特性 妊娠期の心理・社会的特性	酒井先生
3	妊婦と胎児のアセスメント	妊娠とその診断・妊娠期の検査 胎児の発育と健康状態の診断	酒井先生
4	妊婦と胎児のアセスメント	妊婦と胎児の経過とアセスメント	酒井先生
5	妊婦と胎児のアセスメント	妊婦と胎児の経過とアセスメント	酒井先生
6	妊婦と家族の看護	妊婦が受ける母子保健サービス 妊婦の保健相談の実際 親になるための準備教育	酒井先生
7	妊娠期母性看護技術（演習）	妊婦に関する母性看護技術演習（①妊婦検診・内診の介助 ②児心音測定・妊婦体操）	酒井先生
8	妊娠期母性看護技術（演習）	妊婦に関する母性看護技術演習（①妊婦検診・内診の介助 ②児心音測定・妊婦体操）	酒井先生
9	分娩の要素と分娩経過	分娩の要素（分娩の4要素・分娩の機序） 分娩の経過	
10	産婦と胎児と家族のアセスメント	分娩期の産婦の身体的・心理的・社会的変化・胎児に及ぼす影響	
11	産婦と胎児と家族のアセスメント	分娩期の産婦の身体的・心理的・社会的変化・胎児に及ぼす影響	
12	産婦と家族の看護	産婦と胎児の健康状態のアセスメント 産婦と家族の心理社会面のアセスメント	
13	分娩期の看護の実際	分娩第1期から5期までの看護の実際	
14	母性看護技術（演習）	演習 ①産痛緩和の援助、呼吸法 ②分娩監視装置取り扱い	
15	母性看護技術（演習）	演習 ①産痛緩和の援助、呼吸法 ②分娩監視装置取り扱い	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学 [2] 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版株式会社
参考図書	系統看護学講座 専門分野II 母性看護学概論 母性看護学 [1] 医学書院
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	産褥期・新生児期の看護	講義 演習	1 (30)	2年 後期	酒井枝津子 納富裕子	助産師

授 業 概 要

産褥期および新生児期の生理的变化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに褥婦および新生児の看護や保健指導について学ぶ。さらに、これまでの学びを統合し母児を一体とらえた産褥期の看護過程展開を通して妊娠、分娩、産褥期は生理的現象であることや、対象のより健康な状態を自己管理ができるように援助するウェルネス思考の考え方を理解する。

到 達 目 標

産褥期・新生児期の生理的变化と看護が理解できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○		○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	新生児の生理	新生児とは 新生児の生理	酒井先生
2	新生児の生理	ハイリスク児の評価 出生直後の評価	酒井先生
3	新生児アセスメント	新生児の健康状態のアセスメント	酒井先生
4	新生児期の看護技術 (演習)	新生児のバイタルサイン測定・新生児の抱き方・新生児の測定・沐浴	酒井先生
5	新生児の看護	出生直後の看護 出生後から退院までの看護	酒井先生
6	産褥経過・褥婦の看護	産褥期の身体的特徴 産褥期の心理・社会的特徴	酒井先生
7	産褥期の看護技術 (演習)	乳房の観察・マッサージ方法・子宮底・収縮の観察・産褥体操	酒井先生
8	褥婦と家族の看護	褥婦と家族の看護	酒井先生
9	事例展開 (看護過程)	褥婦・新生児・家族に対する保健指導	納富
10	事例展開 (看護過程)	褥婦・新生児・家族に対する保健指導の模擬実施	納富
11	事例展開 (看護過程)	乳房の観察・マッサージ方法・子宮底・収縮の観察・産褥体操	納富
12	事例展開 (看護過程)	新生児のバイタルサイン測定・新生児の抱き方・新生児の測定・沐浴	納富
13	事例展開 (看護過程)	新生児のバイタルサイン測定・新生児の抱き方・新生児の測定・沐浴	納富
14	沐浴 (演習)	沐浴演習	納富
15	沐浴 (演習)	沐浴演習	納富
16	終講時試験	筆記試験	酒井・納富

評価	筆記試験80% 課題20%
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学 [2] 医学書院
参考図書	太田操, ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版株式会社
留意事項	課題、グループワークを評価に含む

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	母性機能に障害をもつ人の看護	講義 演習	1 (30)	2年 後期	井田裕子	助産師

授 業 概 要

妊娠、分娩、産褥期に生じる異常と、ハイリスク新生児について、どのような状態のもとで正常から異常へと移行していくのか、またそれを予防し健康を維持するための支援について学習する。対象とその家族に目を向け、ハイリスクにある対象の看護を展開するための周産期の異常についての基礎的知識を学習する。健康障害に対する看護について、既習の病態生理の知識を基に科学的根拠に基づいた看護実践方法を学べる内容とする。さらに、女性のライフサイクルにおける健康障害として女性生殖器疾患の看護を学び、幅広い視野で母性看護を捉えられるような学習にする。事例展開を通し、対象に寄り添う看護、家族中心の看護について考察することができる内容とする。

到 達 目 標

母性機能に障害を持つ人の看護が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	妊婦の異常と看護	ハイリスク妊娠 妊娠期の感染症	
2	妊婦の異常と看護	妊娠疾患・多胎妊娠 妊娠持続期間の異常・異所性妊娠	
3	ハイリスク妊婦の看護	ハイリスク妊婦の看護	
4	ハイリスク妊婦の看護	ハイリスク妊婦の看護	
5	分娩の異常と看護	産道の異常・娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害・胎児の付属物の異常・胎児機能不全	
6	分娩の異常と看護	分娩第3期および分娩直後に異常・分娩時の異常出血 産科処置と産科手術	
7	異常のある産婦の看護	異常のある産婦の看護・異常分娩時の看護 分娩時出血のある産婦の看護	
8	新生児の異常と看護	新生児仮死・分娩外傷 低出生体重児	
9	新生児の異常と看護	高ビリルビン血症と看護	
10	産褥の異常と看護	子宮復古不全・産褥熱・産褥血栓・精神障害	
11	産褥の異常と看護	異常のある褥婦の看護	
12	精神障害合併妊婦と家族	妊娠への影響・治療および看護	
13	異常褥婦の看護の展開	事例による看護の展開	
14	新生児異常の看護の展開	事例による看護の展開	
15	まとめ	学習のまとめ	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護 系統看護学講座 女性生殖器 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	精神看護学概論	講義	1 (15)	2年 前期	松本 和彦	看護師

授 業 概 要

精神看護学の基本的概念とその目的と意義を明確にしたうえで看護の機能と役割を理解することをねらいとする。また、精神保健活動の歴史と変遷、精神保健福祉制度について学び、精神看護の現状と展望、精神障害者の権利擁護について学習する。

到 達 目 標

精神障害の基本的な考え方が理解できる。精神保健医療と看護の歴史の変遷が理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	精神障害の基本的な考え方	こころの健康とは 障害のとらえ方 社会の変化とメンタルヘルス	
2	精神医療と看護の歴史の変遷	欧米の精神医療の歴史	
3	精神医療と看護の歴史の変遷	日本の精神保健医療看護の歴史	
4	精神医療と看護の歴史の変遷	精神医療の現状と問題点 欧米における精神医療の変革と問題 発展途上国の精神医療の現状	
5	精神医療をめぐる法律	精神医療に関わる法制度の変遷 「障害者自立支援法」と地域生活支援サービス	
6	看護の倫理と人権擁護	精神医療におけるアドボカシーの必要性 生活の場としての治療環境	
7	入院環境と治療的アプローチ	治療の場としての精神科病棟 治療的環境 入院生活における環境 治療的環境	
8	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎・精神看護の展開 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	心の健康	講義	1 (30)	2年 前期	浦川 亮介	看護師

授 業 概 要

こころの健康に焦点をあて、心の機能、発達について理解し、こころの健康とは何かを考え、ライフサイクルでの発達課題と危機を理解する。また、ストレスや危機的状況における心の働きを学び、これらに障害を抱える人々とその家族である精神看護の対象を理解する。

到 達 目 標

人間の心と行動について理論を用いて説明することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	精神保健の考え方①	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響	
2	精神保健の考え方①	心的外傷（トラウマ）と回復 精神障害という捉え方	
3	心のはたらきと人格の形成①	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき 心のしくみと人格の発達	
4	心のはたらきと人格の形成②	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき 心のしくみと人格の発達	
5	心のはたらきと人格の形成③	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき 心のしくみと人格の発達	
6	関係のなかの人間①	システムとしての人間関係 全体としての家族 人間と集団	
7	関係のなかの人間②	システムとしての人間関係 全体としての家族 人間と集団	
8	地域におけるケアと支援①	「器」としての地域 地域における生活支援の方法	
9	地域におけるケアと支援②	地域におけるケアの方法と実際	
10	地域におけるケアと支援③	学校におけるメンタルヘルスと看護	
11	地域におけるケアと支援④	職場におけるメンタルヘルスと看護	
12	医療の場におけるメンタルヘルスと看護①	身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス	
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護②	リエゾン精神看護とその活動	
14	医療の場におけるメンタルヘルスと看護③	リエゾンナースの活動の実際	
15	医療の場におけるメンタルヘルスと看護④	看護師のメンタルヘルスの支援	
16	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎・精神看護の展開 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	心の健康障害と看護	講義	1 (30)	2年 前期	松本 和彦	看護師

授 業 概 要

精神障害の考え方やその症状、診断の基礎や検査・治療について学び、代表的疾患とその治療を学習し、精神障害の基本的知識を身につける。

到 達 目 標

精神障害の症状、治療、検査について理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		○	○	○			

回数	単元	内 容	担当教員
1	精神障害の分類と特徴①	精神作用物質による精神障害 統合失調症	
2	精神障害の分類と特徴②	気分障害 神経症性障害(パニック障害・身体表現性障害など)	
3	精神障害の分類と特徴③	外傷後ストレス障害 (PTSD) 人格障害	
4	精神障害の分類と特徴④	認知障害 発達遅滞・発達障害	
5	医学的検査	臨床検査と生物学的背景	
6	心理検査	心理アセスメント 知能検査 人格検査	
7	治療の構造①	抗精神病薬 抗うつ病 抗不安薬	
8	治療の構造②	睡眠薬 服薬指導上の注意点	
9	精神療法①	精神療法に用いる用語 個人精神療法	
#	精神療法②	集団精神療法 精神分析療法 行動療法 認知行動療法	
#	精神療法③	芸術療法 心理劇 遊戯療法 催眠療法 森田療法 内観療法	
#	精神療法④	社会療法 社会療法とは 社会療法の意味するもの 具体的な方法	
#	精神療法⑤	電気けいれん療法 適応と禁忌 電気けいれん療法の方法 電気けいれん療法における看護	
#	嗜好と依存	依存のとらえ方 嗜好と依存アルコール依存 逸脱行動と「烙印」治療・看護の特徴	
#	まとめ	学習のまとめ	
#	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎・精神看護の展開 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	精神看護学演習	講義・演習	1 (30)	2年 後期	淵 一郎 尾形広知	看護師

授 業 概 要

対象を全人的に捉え、対象の持てる力を引き出せるような思考過程を育てることをねらいとする。  
精神看護における看護の姿勢やかかわり方を理解し、診察・検査時の看護や援助技術を学ぶ。また、精神に障害をきたした人々を理解し、対象に応じた看護の援助法を学ぶ。さらに、現在の地域精神保健活動について学ぶ。

到 達 目 標

精神看護における看護の姿勢、関わり方、診察・検査時の看護や援助技術を修得する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○	○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	ケアの人間関係	①ケアの前提 ②ケアの方法 ③関係をアセスメントする ④患者－看護師関係における感情体験 ⑤関係の視点から見た困難事例 ⑥チームのダイナミクス	尾形
2	ケアの人間関係		尾形
3	回復を支援する	①回復の意味 ②リカバリーのビジョン ③治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 ④リカバリーを促す環境 ⑤リカバリーを促す方法としてのグループ ⑥さまざまな回復のためのプログラム ⑦リカバリーのプロセス	尾形
4	回復を支援する		尾形
5	身体をケアする	①精神科における身体ケア ②精神科における身体を通じた看護ケアの実践 ③精神科の治療に伴う身体ケア ④身体合併症のアセスメントとケア	尾形
6	身体をケアする		尾形
7	安全を守る	①リスクマネジメントの考え方と方法 ②緊急事態に対処する ③緊急事態とスタッフ支援④リエゾンナースの活動の実践 ⑤看護師のメンタルヘルスの支援	尾形
8	安全を守る		尾形
9	入院治療の意味	精神科を受診すること・治療の器としての病院・病棟・入院中の観察とアセスメント	淵
10	入院治療の意味	ケアの方向性を考える・退院に向けての支援と実際	淵
11	事例展開	統合失調症（急性期・慢性期）の事例における看護展開	淵
12	事例展開	統合失調症（急性期・慢性期）の事例における看護展開	淵
13	事例展開	統合失調症（急性期・慢性期）の事例における看護展開	淵
14	事例展開	統合失調症（急性期・慢性期）の事例における看護展開	淵
15	事例展開	統合失調症（急性期・慢性期）の事例における看護展開	淵
16	終講時試験	筆記試験（淵先生50点・尾形先生50点）	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎・精神看護の展開 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	専門職連携の基礎	講義・演習	1 (15)	1年 後期	工藤広大朗	看護師

授 業 概 要

多職種連携の必要性を理解し、保健・医療・福祉における各専門職の役割と活動内容を学ぶ。

到 達 目 標

保健・医療・福祉における各専門職の役割と活動内容を説明することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
					○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	多職種連携の必要性①	多職種連携を推進する意義 多職種連携を推進するために自らの目指す職種においてできること	
2	多職種連携の必要性②	自らの目指す職種の専門性を追求するための学習課題	
3	専門職の理解①	保健医療福祉における各専門職の関与する領域 各専門職の組織	
4	専門職の理解②	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士	
5	専門職の理解③	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技師	
6	専門職の理解④	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）介護福祉士、MSW、保健師	
7	専門職の理解⑤	各専門職が考える多職種連携の概念 自らが目指す職種の役割と活動内容と活動の限界	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	専門職連携の構築	講義・演習	1 (15)	2年 後期	工藤広太郎/永尾早苗	看護師

授 業 概 要

お互いの職種の特性を活かしながら対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現を目指す能力を習得する。

到 達 目 標

対象者の目標達成、課題解決に向けて専門職種と共同し、よりよい方法をともに検討し、意義を表現することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○	○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	多職種連携を円滑に行う技術	コミュニケーション方法と相手への影響に気づく 双方向のコミュニケーション アサーションの概念	
2	多職種連携を円滑に行う技術	各専門職の強みと弱みを理解し、交渉や同意など折り合いをつけるスキル	
3	保健医療福祉システムの提供と支援	事例（大腿骨頸部骨折）をもとに生涯にわたる保健・医療・福祉制度を活用できる方法を考える	
4	保健医療福祉システムの提供と支援	コミュニティの中で日常生活を営む知恵を獲得できるような支援を考える	
5	保健医療福祉システムの提供と支援	保健医療福祉システムにおける各専門職の役割を理解し、マネジメントの必要性を理解する	
6	保健医療福祉システムの提供と支援	事例（大腿骨頸部骨折）（理学療法学科2年生と退院指導模擬カンファレンス）	
7	保健医療福祉システムの提供と支援	多職種連携は今後、どのような場や環境で推進していくべきか表現する	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	医療安全	講義	1 (15)	2年 後期	波多 純一	看護師

授 業 概 要

今日の医療現場では、強力な薬剤や優れた機器が導入され、昼夜を問わず医療行為が続けられている。看護師はそうした行為の最終的な医療行為者や観察者となることが多く、わずかな間違いや観察不足が患者の重大傷害に結びつくという日常に身を置いている。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせない。そこで、『医療安全』では看護事故の構造と事故防止の考え方を中心に講義を行う。

到 達 目 標

医療安全に対する取り組みと医療事故の防止・対策を修得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			○	○	○		

回数	単元	内 容	担当教員
1	医療事故とヒューマンエラー	医療事故の実態 ヒューマンエラーファクター 事故の分類とハインリッヒの法則	
2	医療事故とヒューマンエラー	医療事故の発生メカニズムと分析 システム不備による事故 個人に起因する事故	
3	事故防止体制	自己モニタリングの活用 システムの改善と組織的対策	
4	事故防止体制	事故報告 患者・家族への対応 インシデント・アクシデントレポート	
5	事故事例の分析	「誤薬事故」の要因を探る—事故事例の分析	
6	事故事例の分析	「転倒・転落」のシュミレーション・リフレクション体験	
7	事故事例の分析	看護における医療安全とは 医療安全における看護の倫理と責任	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員	実務経験
専門	国際看護	講義	1 (15)	2年 後期	藤田さやか 坂口佳穂里	

授 業 概 要

国際社会における保健・医療・福祉の実情を知り、国際協力について主体的に考えることができる。

到 達 目 標

世界の現状と国際看護の概要、国際看護活動についてについて説明することができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応DP	DP1	DP 2	DP3	DP4	DP5	DP 6	DP7
	○	○	○	○	○	○	

回数	単元	内 容	担当教員
1	国際社会の現状	世界が100人の村だったら	坂口先生
2	国際看護の概要と歴史	なぜ国際看護活動が必要か MDGs・PHC・SDGs・UHCの概念を理解する（事前課題）	藤田先生
3	SDGs探究ワークショップ【演習】	持続可能な開発目標について自分たちができることを探究する	藤田先生
4	国際協力を支える国際機関とODA NPOでの活動の実際	UN・WHO・JICA・赤十字・NPO/NGOの機能と役割について（事前課題） 文化に影響を与える民族、人種、信仰、経済格差と国際支援活動について	坂口先生
5	国際協力ワークショップ【演習】	援助する前に考えよう	坂口先生
6	国際看護活動の実際	世界の人々の主要な健康課題と看護の役割について	藤田先生
7	在留外国人の保健医療福祉の現状と課題	異文化看護の視点で看護の役割を考える	藤田先生
8	終講時試験	まとめ／筆記試験（試験（100点）作成：藤田先生）	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 災害看護・国際看護
参考図書	
留意事項	

# シラバス

2023年（令和5年度）



学校法人巨樹の会  
武雄看護リハビリテーション学校  
看護学科（11回生）

評価計画 (2023年)

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者		
基礎分野	論理学		1年	1	30	100	100			
	健康科学		1年	1	15	100	100			
	情報科学		2年	1	30	100	100			
	心理学		1年	1	30	100	100			
	成長発達論		1年	1	30	100	100			
	人間関係論		1年	1	30	100	100			
	倫理学		1年	1	30	100	100			
	教育学		1年	1	30	100	100			
	家族社会学		1年	1	30	100	100			
	文化人類学		1年	1	15	100	100			
	生活科学		1年	1	30	100	100			
	英語 I		1年	1	30	100	100			
	英語 II		1年	1	30	100	100			
専門基礎分野	人体の発生と構造・血液の成分と機能		1年	1	30	100	100			
	呼吸・循環の構造と機能		1年	1	30	100	100			
	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能		1年	1	30	100	100			
	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		1年	1	30	100	100			
	生化学		1年	1	30	100	100			
	疾病の発生と病理的变化		1年	2	30	100	100			
	呼吸器・循環器・血液造血器の疾病と回復の促進	呼吸器・血液	呼吸器・血液 循環器	1年	1	30	17	70	100	
							13	30		
	消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	消化器	消化器 腎泌尿器 女性生殖器	2年	1	30	17	70	100	
							9	30		
							4			
	脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	脳神経	脳神経 運動器 感覚器	2年	1	30	15	50	100	
							9	50		
							4			
	内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進			2年	1	30	100	100		
	微生物学 I			1年	1	15	100	100		
	微生物学 II			2年	1	30	100	100		
	栄養学			1年	1	30	100	100		
	薬理学 I			1年	1	15	100	100		
薬理学 II			1年	1	30	100	100			
総合医療論			1年	1	15	100	100			
公衆衛生学			3年	2	14	50	100	蒲原 知愛子		
		16			50	佐々木 奏子				
社会福祉			3年	2	30	100	100	日高 浩太郎		
関係法規			3年	2	30	100	100	北垣 浩志		

評価計画 (2023年)

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
専門分野 I	看護学概論		1年	1	30	100	100		
	看護過程の基礎		1年	2	45	100	100		
	看護研究の基礎		3年	1	30	100	100		
	共通看護技術 1		1年	1	30	100	100		
	共通看護技術 2		1年	1	30	100	100		
	日常生活援助技術 1		1年	1	30	100	100		
	日常生活援助技術 2		1年	1	30	100	100		
	ヘルスアセスメント		1年	1	30	100	100		
	診療に伴う看護技術		1年	1	30	100	100		
	臨床看護総論		1年	1	15	100	100		
専門分野 II	成人看護学概論		1年	1	30	100	100		
	セルフマネジメントが必要な成人の看護		2年	1	30	100	100		
	生命が危機状況にある成人の看護		2年	1	30	100	100		
	セルケアを再獲得する成人の看護		2年	1	30	100	100		
	治療困難な状況にある成人の看護	緩和・ターミナルケアとは がん看護・白血病患者の看護	2年	1	30	24 6	100	100	
	健康障害を持つ成人の看護過程	急性期患者の看護過程	2年	1	30	10	35	100	
		慢性期患者の看護過程				10	30		
		終末期看護の看護過程				10	35		
	老年看護学概論		1年	1	30	100	100		
	高齢者のヘルスアセスメントと看護援助		2年	1	30	100	100		
	健康障害をもつ高齢者の看護	機能障害のある患者の看護	2年	1	30	15	50	100	
		症状看護				15	50		
	健康障害をもつ高齢者の看護過程		2年	1	15	100	100		
	小児看護学概論		1年	1	30	100	100		
	健康障害をもつ小児の看護		2年	1	30	100	100		
	小児看護技術		2年	1	30	100	100		
	健康障害をもつ小児の看護過程		2年	1	15	100	100		
	母性看護学概論		2年	1	15	100	100		
妊娠期・分娩期の看護		2年	1	30	15	50	100		
					15	50			
産褥期・新生児期の看護		2年	1	30	15	50	100		
					15	50			
母性機能に障害をもつ人の看護		2年	1	30	50	100			
専門分野 II	精神看護学概論		2年	1	15	100	100		
	こころの健康		2年	1	30	100	100		
	こころを病む人と医療		2年	1	30	100	100		
	こころを病む人の看護過程の展開	看護過程の展開	2年	1	30	15	50	100	
		ケア方法				15	50		

## 評価計画（2023年）

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
統合分野	在宅看護概論		2年	1	15	100	100		
	在宅看護の対象と法制度		2年	1	30	100	100		
	在宅における看護技術	日常生活援助	2年	1	30	15	50	100	
		診療の補助技術				15	50		
	在宅療養している人の看護過程		2年	1	30	100	100		
	統合看護技術		3年	1	30	100	100	太田 裕美子	
	国際看護		2年	1	15	100	100		
	災害看護		3年	1	15	9	100	100	秋永 和之
						6			消防士
看護管理		3年	1	15	100	100	牛島 美智子		
医療安全		2年	1	15	100	100			

分野	専門基礎	授業科目	公衆衛生学			単位 (時間数)	2単位 (30時間)
						講義回数	15回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	蒲原 知愛子 佐々木 奏子	実務経験	保健師	講師所属	(佐々木) 新武雄病院		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

公衆衛生活動を学び、人々の健康とはなにか、健康づくりのための組織とはなにか、医療従事者としての役割機能の理解を深める。

#### 2. 学習目標

- 1) 公衆衛生活動の領域・特徴を学ぶ
- 2) 健康の定義と予防医学、健康づくりについて学ぶ
- 3) 地域・職域保健活動の取組みを学ぶ
- 4) 公衆衛生とは何か述べることができる。

#### 3. 授業内容

(佐々木先生) 1～7回

公衆衛生の概念・活動対象

健康の指標 (人口静態 人口動態 受療状況) ・疫学的手法

公衆衛生のしくみ・環境保健

(蒲原先生) 8～15回

地域保健 (母子保健・成人保健・高齢者保健)

地域保健 (精神保健・難病支援・感染症対策)

健康危機管理・災害保健・国際保健

学校保健・産業保健

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容に沿って講義を行う

国民衛生の動向を参考図書とする

### テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 [2] 公衆衛生』《医学書院》

### 参考図書

『国民衛生の動向』2022/2023 《厚生統計協会》

### 評価方法

筆記試験による評価

分野	専門基礎	授業科目	社会福祉			単位 (時間数)	2単位 (30時間)
						講義回数	15回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	後期	後期	通年		
担当講師	日高 浩太郎	実務経験	20年	講師所属	東京リーガルマインド		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

看護師は「病気ではなく、病人をみる」。

また、人間の健康に関わる事項に社会のさまざまな立場から関わる看護師にとって、年金・医療・福祉などの社会保障や社会福祉の各制度の理解は必須のものである。そのためには、社会保障・社会福祉の成過程、目的なども含めて理解する。

#### 2. 学習目標

看護師にとって必要な、医療保障や介護保険をはじめとする社会保障制度ならびに、障害者や要介護者が自立した生活が送れるように支援する社会福祉制度について現状を含めて理解する。

#### 3. 授業内容

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1) 社会保障制度と社会福祉の成立過程       | 2) 社会保障の種類、構造、目的、機能 |
| 3) 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向   | 4) 医療保障             |
| 5) 介護保障                   | 6) 所得保障             |
| 7) 公的扶助 (生活保護の現状と問題点と脱却へ) | 8) 社会福祉の分野とサービス     |
| 9) 社会福祉実践と医療・看護           | 10) 社会福祉の歴史         |

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・問題を指定して解答してもらう

### テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉』《医学書院》

### 参考図書

『国民衛生の動向』

その他講義中に適宜紹介する

### 評価方法

筆記試験、授業態度など総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	関係法規		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	15回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	北垣浩志	実務経験		講師所属	佐賀大学	

1. 授業のねらい (学習目的): 下記に記載

2. 学習目標: 下記に記載

3. 授業内容: 細部は教育計画大綱による

### 授業の進め方 / 履修上の注意

授業の導入にあたって

- 1) 各法律教育項目の授業内容及びネライを説明
- 2) 医療環境を念頭に置いた教育

・少子高齢化・労働能力人口 (15歳～65歳)・失業率・出生率・医療費の増大等、現代社会を取り巻く医療環境の背景を統計的に説明。  
(この際、とくに法制改正の根拠・必要性を強調する)

法規教育授業にあたって

- 1) 国の政策

例: すこやか親子21・エンゼルプラン・ゴールドプラン等の重視事項を当該法規と併せて説明。

- 2) 単一法規教育に終始せず、当該法規に関連する法規を併せて体系的に教育する。

例: 各種法規にまたがる守秘義務等

- 3) 疑問を後に残さない教育及び言葉の定義の説明

言葉の意味を曖昧にさせない。

例1: 刑の執行が終わり、又は刑の執行を受けることがなくなるまでの定義

例2: 直ちに・速やかな時期的関連

例3: 看做すと推定の意味の違い

例4: 権利を要求する場合の申請による場合と自動的に権利が発生する場合

例5: 定義の把握、褥婦・新生児・妊産婦・周産期・幼児・児童

- 4) 一方的教育は努めて避けるとともに、授業の途中で学生の理解度等を確認するとともに、教育の関心度を高める。

- 5) 関係条文の理解・解釈

物事を考えるに当たり、どの法律とどの法律を組み合わせ解釈しうる能力の基盤の育成。

- 6) 看護事例を努めて多く紹介し、追体験をさせる。

教育終了にあたって

過去の国家試験問題を中心に要点の整理に努める。

演習を授業に積極的に取り入れ、頭とともに手を動かして内容が定着するようにする。

教育の終始にあたり、視聴覚に訴える教育

(教育資機材の活用に努める)

授業科目	関係法規	担当講師	北垣 浩志
------	------	------	-------

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい（学習目的）

- ・各種医療法規及び、労働法規等を学ぶことにより、看護業務上必要な法規条文のエッセンスの取得及び、法体系・法解釈・法適用の基礎を確立する。
- ・行為規範及び行動の準拠である法を学ぶことにより看護師としての自分の地位・役割が明確になる。
- ・法を学ぶことにより、物の見方、考え方が身につき、問題解決の糸口を見直し、業務の幅を広げる。
- ・法を学ぶことにより、業務上及び私人としての権利、業務関係が明確になり、且つ5W1H（いつ・だれが・どこで・なにを・どのように）の立場で適時的確な行動規範を取れるようにする。
- ・看護者としての地位・役割を明確にさせる。
- ・自学研鑽の気風を助長する。
- ・コンプライアンス（法令遵守）の精神を助長する。

#### 2. 学習目標

- ・法の適用及び解釈にあたり、どの法律とどの法律を組み合わせればよいか理解できるようになる。
- ・法体系を知ることにより、どこにどのようなことが規定されているか認知できる。  
（法の条文を丸暗記するのではなく、法の目的、趣旨から内容を判断することができる。）
- ・法律が規定する権利義務関係を承知することにより、次の者の権利・利益を保護し得る。  
①対象者である患者及びその家族 ②看護人である自分自身 ③病院組織
- ・常日頃、看護者として自学研鑽に努めなければ色々変化する医療環境に追従していけない事を認識させることができる。

### テキスト

健康医療福祉環境政策の略史 北垣浩志（著）

### 参考図書

- 『医療関係法規』《MCメデカル出版》定価 3,000 円（本体+税）
- 『医療関係法規 新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度 4』木戸修・山本光昭（編）  
《メディカルフレンド社》定価 2,415 円（本体+税）
- 『看護職のための関係法規』杉本正子・眞船拓子・南方唾・甲斐克典（編）  
《ヌーグエル・ヒロカワ》定価 2,415 円（本体+税）
- 『看護職のための社会福祉・社会保障』杉本正子・眞船拓子・結城俊哉・丸山美知子（編）  
《ヌーグエル・ヒロカワ》定価 2,310 円（本体+税）
- 『看護師・保健師国家試験対策ブック』今西春彦（編著）《MCメデカル出版》定価 1,400 円（本体+税）
- 『保健師・看護師国試対策 関係法規 2011 ラ・スパ』テコム編集委員会（編）  
《医療評論者》定価 1,900 円（本体+税）

### 評価方法

期末テストによる

分野	統合	授業科目	統合看護技術			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	15 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	太田裕美子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

既習の知識・技術を統合し、臨床判断を行うための基礎的能力を身につけることができる。

#### 2. 学習目標

- 1) 複数患者に対する看護について優先順位を考えることができる。
- 2) 対象の状態や状況に応じた看護を実践することができる。

#### 3. 授業内容

- 1) 複数患者の1日の行動計画立案  
優先順位の考え方 (時間管理、安全・安楽 他)
- 2) 事例に応じた看護技術の実施  
膀胱留置カテーテル、点滴のある人の寝衣交換等
- 3) 計画に基づき、二人の患者への援助を時間過程の中で適切に実施  
安全の確保  
タイムマネジメント
- 4) 多重課題への対応

### 授業の進め方 / 履修上の注意

演習、グループワーク

### テキスト

#### 参考図書

- 任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 I, 医学書院.  
 任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II, 医学書院.  
 上泉和子 : 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院.

### 評価方法

筆記試験・演習態度・レポートにより評価する (100 点)。  
 出席・授業態度も評価対象とする。

分野	統合	授業科目	災害看護		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	秋永 和之 (消防士)	実務経験	看護師 救急救命士	講師所属	福岡看護大学 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

災害時における医療の役割を知り、災害サイクルに応じた看護を行う必要性を理解し、災害時における人々の健康や生活ニーズに応じた支援活動を行うための看護の基礎を学ぶ。

#### 2. 学習目標

##### 講義

- 1) 災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。
- 2) 災害看護に関する基礎的知識と基本姿勢について述べるができる。
- 3) 災害時要援護者の特徴と支援の必要性について述べるができる。
- 4) 災害時の被災者および援助者の心理と援助について述べるができる。
- 5) 災害サイクル各期における看護職の役割について述べるができる。

##### 演習

- 1) 災害時のトリアージの意義と方法について述べるができる。(演習)
- 2) 救急活動に必要な技術(応急処置と搬送)ができる。(演習:災害シミュレーション)

#### 3. 授業内容

##### 講義

- |                                   |                              |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1) 災害の定義について                      | 2) 災害のサイクルと看護活動              |
| 3) 災害時の情報収集と伝達手段<br>「METHANE」について | 4) 急性期の看護活動「CSCATTT」<br>について |
| 5) 避難所での看護活動                      | 6) 心のケア                      |
| 7) 災害時の保健活動と衛生管理                  | 8) 包帯法                       |
| 9) 広域搬送について                       |                              |

##### 演習

演習 3 回 (6 時間): 災害対応の原則「CSCATTT」、トリアージ、救急搬送など

### 授業の進め方 / 履修上の注意

- ・パワーポイントによる講義・ディスカッション・資料配布・ビデオ学習・演習 (三角巾必要)
- ・グループワーク

演習に必要なもの: トリアージタグ (ひとり 1 枚・学校で準備)、救急搬送ボード 2 個 (病院より借用)

### テキスト

『災害看護』《メディカ出版》

### 参考図書

『DMAT 標準テキスト』一般社団法人日本集団災害医学会 (編) 《株式会社へるす出版》

### 評価方法

テスト (100 点満点)

分野	統合	授業科目	看護管理		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	牛島 美智子	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

現在の看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動としてとらえられている。対象のニーズを満たす看護サービスを提供するためには、看護職同士の協働、他職種との連携、対象や対象を取り巻く家族の協力と、対象を取り巻くあらゆる資源の活用について調整と責任感のあるリーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。

#### 2. 学習目標

チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップ及びマネジメントができる能力について理解できる。

#### 3. 授業内容

##### 1) 看護とマネジメント

①看護におけるマネジメント

##### 2) ケアのマネジメント

①ケアのマネジメントと看護職の機能 ②看護基準と看護手順 ③患者の権利の尊重  
④安全管理 ⑤看護職の協働 ⑥他職種との協働

##### 3) 看護サービスのマネジメント

①看護サービス、組織目的達成、協働・情報・技術のマネジメント

##### 4) 看護をとりまく諸制度

①看護職の定義 ②看護実践の領域と場 ③医療制度

##### 5) マネジメントに必要な知識と技術

①組織とマネジメント ②リーダーシップとマネジメント ③組織の調整 ④組織と個人

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート、グループワークなど

### テキスト

系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕『看護管理』《医学書院》

### 参考図書

講義中に適宜紹介する。

### 評価方法

筆記試験、レポートと授業態度などを総合的に評価する。